令和元年度

研修集録

第　34　号

秋田市立秋田商業高等学校

《巻頭言》

なぜ組織的に取り組まなければならないのか

校長 石井 潔

多くの先生方から原稿を寄稿していただき、令和元年度『研修集録第34号』が発刊できましたことをお喜び申し上げますとともに、編集にあたりご尽力いただきました研修部の先生方に感謝申し上げます。この冊子は、先生方の今年１年間の研修活動の成果が凝縮された冊子でありますので、どうかお一人お一人がこの研修集録に目を通し、成果と課題を共有し、来年度のご自分の目標設定の際の参考にしていただければ幸いであります。

さて、今年度の研修テーマを「組織的・継続的に取り組む授業改善の推進～『問い』を発する思考力を育むために～」とし、昨年から継続して「組織的な取り組み」に視点を置いて本校の教育活動を展開していただきましたが、いかがだったでしょうか。

話は変わりますが、私の新任当時の授業改善の取り組みはどうであったかといいますと、校内での授業研修の取り組みが薄かったように記憶しております。そのような環境でありましたから、経験の少ない新米教師と他の中堅･ベテラン教師の授業力の差は言うまでもありません。体育は身体活動を伴う教科ですので、生徒達の活動量と動きの質の差、表情の差といった違いにいつも劣等感に打ちひしがれながらも、負けず嫌いな自分としては、ベテランの先生方にアドバイスをもらうのも癪なもので、よく体育館の２階の放送室の壁穴からベテラン教師の授業を見て、自分も同じようにやってみて、生徒の反応の違いを検証し、それを繰り返すことで何とか自分なりのスタイルを作り、５年目には一応生徒に満足してもらえる授業を提示できるようになったかなと、自己満足に浸っていたことが思い浮かばれます。日本では伝統的に「技は見て盗むもの」という考え方がありますが、これはこれで意味があることと思いますが、誠にもって効率が悪く、先生を指名できない生徒達にとっては、教え方が未熟な先生が担当になったものなら、たまったものではありません。校外での様々な研修会や校内研修を通して学習指導法等について学び合い、情報交換できる機会が多くなっている今の先生方の環境を見ていますと、うらやましくも感じております。

ご承知のとおり、次回の学習指導要領では、カリキュラムマネジメント（教科横断的・組織的な取組）の視点を持って学校現場で取り組むことを求めております。これからの社会は、グローバル化・情報化がより急激に進歩し、第４次産業革命に突入するであろうと予想されておりますが、その時代に適応できる質の高い人材の育成を社会は求めています。そのニーズに応えるように作られた教育の設計図が次回の学習指導要領であり、これらの質の高い教育を効率よく安定して平等に児童生徒に提供できるために必要なこととして「カリキュラムマネジメント」の視点がよりクローズアップされてきたのではないかと私なりに捉えています。

本校では、年２回の授業公開週間においてアピール授業を展開しております。カリキュラムマネジメントの視点から大事な取り組みであると私は思います。生徒が知的好奇心に引き込まれていく授業、様々なＡＬの手法を駆使して生徒に考えさせる授業等々、これから求められる教育に対応した授業改善に努力し、技を持っている先生方が本校にもたくさんおります。学校は「授業」が基本です。生徒は授業を通して知識を得て、基本的な生活態度を学び、世の中のことを学び、先生との信頼関係が構築され、そして先生を尊敬します。若手の先生方は、本校の最新のＩＣＴを活用しながら新しい指導法に果敢にチャレンジし、ベテランの先生方はキャリアで培った「味」を見せ、他の先生方の授業をたくさん見ることによって互いの技を見せ合いながら良い所を吸収し、「ＯＮＥ ＴＥＡＭ」となって、秋商ならではの魅力ある授業づくりに組織的に取り組み､生徒達により質の高い授業を提供していただくことを期待しております。

目　　次

◎　巻頭言「なぜ組織的に取り組まなければならないのか」　校長　石井　潔 …… 1

Ⅰ　指導主事訪問（研究授業）
　１．日程　教務部 …… 3
　２．研究授業の指導案と協議会
　　①商業；授業者（畑沢一利・小山塁）・協議会記録（藤原一誠）　商業科 …… 4
　　②国語；授業者（大関由理）・協議会記録（戸澤恵・近野祥子）　国語科 …… 10
　３．全体協議会　教務部 …… 19

Ⅱ　校内研修の記録
　①第１回「Portfolioの有効活用に向けて」　研修部 …… 23
　②第２回「不登校の未然防止と再登校援助」　研修部 …… 25

Ⅲ　中高連携
　①小・中・高・特別支援学校連携協議会　研修部 …… 32
　②勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会　研修部 …… 33
　③勝平中学校２年生の商業科目授業体験　商業科　櫻庭　咲子　柏谷亜紀子 …… 35

Ⅳ　授業公開週間について
　①実施報告　研修部 …… 40
　②授業紹介　研修部 …… 46

Ⅴ　報告
　１　ビジネス実践
　　①ＡＫＩＳＨＯＰ「ビジネス実践『ＡＫＩＳＨＯＰ』」　商業科　大久保　薫 …… 50
　　②キッズビジネスタウン「令和元年度キッズビジネスタウンの取り組み」　公民科　今　　聡 …… 53
　　③エコロジカルビジネス「エコロジカルビジネス班の活動」　数学科　野呂耕一郎 …… 55
　２　センター研修Ｂ講座
　　①「高等学校保健体育科授業の充実」　保健体育科　船木　祐輔 …… 56
　　②「情報教育推進研修講座」　商業科　佐々木一秀 …… 58
　３「東北地区国語研究協議会に参加して」　国語科　近野　祥子 …… 63

Ⅵ　2019年度研修対象者・研究会等参加者一覧 …… 66

Ⅶ　編集後記　研修部 …… 68

平成31年度　指導主事訪問

1　期日：令和元年９月24日（火）

2　訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課主席主査　指導主事　畠　山　勇　人　先生
秋田市教育委員会学校教育課主査　指導主事（国語）　横　山　靖　子　先生
秋田市教育委員会学校教育課主査　指導主事（家庭、技術・家庭、総合的な学習の時間）
庄　内　智　矢　先生
秋田県教育庁高校教育課　指導主事（国語）　櫻　田　瑞　子　先生
秋田県教育庁高校教育課　指導主事（商業）　近　藤　俊　春　先生

3　研修テーマ

組織的・継続的に取り組む授業改善の推進～『問い』を発する思考力を育むために～

4　日程

時　　間	内　　容	授　　業
９：15～10：00(45)	１校時	火曜１校時
10：10～10：55(45)	２校時	火曜２校時
11：05～11：50(45) 11：20～ 11：30～11：50	３校時 指導主事来校 学校経営説明＜校長室＞	火曜６校時
12：00～12：50(50)	４校時　校内授業参観	火曜４校時
12：50～13：30	昼食＜校長室＞	
13：30～14：20(50)	５校時　研究授業（国語・商業）	火曜５校時
	科目名　国語総合 内　容　古文編 物語 古人の生き方 授業者　大関由理 生　徒　１年Ａ組40名〈場所 図書室〉	※全員どちらかの授業を見学します。
	科目名　簿記 内　容　仕訳伝票と３伝票制 授業者　畑沢一利、小山塁 生　徒　１年Ｄ組40名〈場所 １Ｄ教室〉	※他クラスは通常授業で自習になります。
14：20～14：40(20)	生徒：清掃活動、放課	
14：45～15：35(50)	各科協議会：国　語　科　＜語学室＞ 商　業　科　＜会議室＞ ※全員の先生がどちらかの協議会に参加します。	
15：45～16：30(45)	全体協議会＜会議室＞ ①指導助言　秋田県教育庁高校教育課　櫻　田　瑞　子　先生 ②総評　秋田市教育委員会学校教育課　畠　山　勇　人　先生 ③校長より	

商業科（簿記）学習指導案

日　　時　令和元年９月24日（火）５校時
場　　所　教室名：１年Ｄ組教室
授 業 者　畑沢　一利・小山　塁
使用教科書　高校簿記（実教出版）

１　単　元　名　　第４編　帳簿と伝票　　第20章　仕訳伝票と３伝票制

２　単 元 目 標

証憑としての伝票の意味と役割を明らかにし、伝票を用いた場合の起票や集計方法を理解させ、伝票の集計ができるようになり、伝票制の利点について理解する。

３　単元と生徒

⑴　教材観

企業では証憑にもとづいて取引の内容を記録する際に、一定の大きさと形式を備えた紙片（伝票）を用意し、これに記入する方法が用いられている。取引の内容に従って伝票を作成する起票を学ぶことによって、仕訳の代替としての伝票の機能や利点を理解させる。また、起票した伝票にもとづいて総勘定元帳や補助簿への転記を行うことにより、それらの関連性を把握することができ、帳簿処理の全体像について理解が深まる。

⑵　指導観

指導内容を「視覚化」することを心がけて授業を実施している。ＩＣＴ機器を活用し、各伝票の仕訳のイメージと、仕訳集計表への転記について視覚的に理解できるように工夫する。また、理解不足を補うために生徒がお互いに教え合うグループワークを取り入れた授業展開を行っている。

⑶　生徒観

生徒数40名（男子18名　女子22名）

各生徒とも授業に意欲的に取り組んでおり、発問に対する反応も良い。

４　指導と評価の計画（４時間）

１．証憑と伝票（１時間）　　３．３伝票制　　（１時間）
２．仕訳伝票　　４．３伝票の集計と転記（本時２／２時間）

【評価規準】

関心・意欲・態度 (A)	思考・判断・表現 (B)	技能 (C)	知識・理解 (D)
帳簿の種類や帳簿全体の仕組み、さらに伝票制に関心を持ち、自ら進んで問題演習に取り組んでいる。	伝票の利用方法の違いや伝票の起票・集計、転記などに関して適切な判断をすることができる。	伝票の起票、集計、転記に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	帳簿と帳簿組織、伝票の起票、集計、転記に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。

５　本時の計画

⑴　ねらい　起票や集計を通して、伝票制の利点・メリットについて理解する。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評　　価
導入5分	本時の学習内容と目標を把握する。 **本時の目標**：伝票制の利点・メリットについて理解する	・目標を提示し、確認させる。	
展開40分	取引を入金伝票、出金伝票、振替伝票に記入する。	・少人数でグループを形成し、そのグループ内で役割分担をして、起票させる。 ・机間巡視を行い、しっかり起票ができていることを確認する。	自ら進んで取引を伝票に起票している。（A）
	３伝票の集計方法を学ぶ。	・入金伝票、出金伝票の仕訳のイメージをもとに、仕訳集計表への転記について視覚的に理解させる。 ・「入金→現金の増加」「出金→現金の減少」というイメージを持つことで、転記がしやすいことを理解させる。	
	実際に伝票を集計する。	・集計が終了した伝票には「チェックマーク」をつけることで、ミスを防ぐ。 ・机間巡視を行い、伝票ごとに分担して集計していることを確認する。	伝票が持つ意味を適切に判断しながら、基本的な集計をすることができる。（C）
	伝票制の利点を考え、発表する。 **発問：伝票制の利点・メリットを考えてみよう!!**		
		・意見を出すことが難しいグループには、考える際のヒントを与える。 ・意見をプリントにまとめ、グループごとに発表させる。	伝票制の利点・メリットについて思考し、説明できる。（B）
整理5分	本時の学習内容の要点を確認する。	・集計方法や利点について確認させ、次時の学習内容に興味を持たせる。	

指導主事訪問協議会（商業科）

日　時：令和元年９月24日（火）14：45～15：35
場　所：秋田市立秋田商業高等学校　会議室
司　会：櫻庭　咲子　　記録：藤原　一誠

１．参加者の紹介

２．授業者より　　授業者：　畑澤一利　先生、小山塁　先生

〈畑澤先生〉

・本日の授業では、準備不足等があり、うまくいかない部分が多かった。特に生徒が使用した教材に時間を多く費やしてしまった。
・授業の最初の方で伝票についての説明の時間を確保できていれば、生徒も以前の内容を思い出し、授業をスムーズに進めることができたと思う。
・良かった点は、伝票のメリットについて生徒が色々と考えて、発表してくれたことが良かった。また、グループごとに活動をしっかりとしてくれたことも良かった。

〈小山先生〉

・Ｔ２として、進行が滞りなくいくようにサポートしながら出来たと思う。伝票やプリント配布、プロジェクターへの投影などもう少しスムーズにやれば時間短縮になったので、今後の改善点として授業に臨んでいきたい。

３．協議

○授業の展開について

佐藤俊平　先生（商業）

・役割分担をグループ内ではなく、グループ単位にすれば、目標の「メリットについて理解する」をもっと感じやすかったと思う。
・グループワークのやり方をもう少し工夫すれば良かった。

米澤雅史　先生（商業）

・仕訳をし、起票し、集計という一連の作業の中ではメリットを感じるまでの時間が足りないと思う。
・あらかじめ起票されている伝票を使って集計する方がメリットを感じやすいと思う。
・内容が盛りだくさんだったため、最後のメリットが感じにくかったのではないか。

村井良裕　先生（商業・１Ｆ簿記担当者）

・1人だけが帳簿に記帳するよりは、色々な係の人が記帳できるようにすれば、メリットを感じやすいかと考えたため、仕入係・売上係・仕訳係・その他の4つの係に変えてみた。しかし、集計まではいかなかったため、目標は達成できなかった。
・前の時間に確認しておけば、メリットを確認するまでいけたかと思う。

鎌田修明　先生（商業・１Ｅ簿記担当者）

・内容を詰め込みすぎて、最後までいかずに作業になってしまった。
・伝票から集計する場合と仕訳帳から集計する場合を比べれば、メリットは感じやすいと思った。

櫻庭先生
・1年生の学習では、伝票はすでに学習済みではあったが、かなり前の内容のため、思い出せなかった生徒が多数だったのではないかと思う。
・本授業を踏まえると、指導案通りでは厳しいものがある。

○普段の１Ｄの生徒の様子と今日の様子を比べてどうだったか
齋藤潤子　先生（数学・１Ｄ担任）
・１Ｄの数学を担当しており、数学の時間は活発に質問を多くしている。
・他の授業は静かという話を聞いていたが、本授業のグループワークは割と話し合いをしていた方だと感じた。
・成績上位の生徒は、成績下位の生徒へ一生懸命教えていた印象を受けた。

○授業内のグループ割りについて
小山先生
・たくさんの生徒と話し合いをしてほしいので、グループは頻繁に変更している。
・理解度などを特別考慮している訳ではないが、本授業のグループは混ざり具合がちょうど良い。

石塚禎子　先生（英語・1年部主任）
・１Ｄ授業は担当していないが、商業科の授業のグループワークはどのように実施されているかを見に行った。
・うまく機能し、生徒は楽しそうに学習している様子で良かった。
・４月当初など、グループになじめない生徒はいなかったか。もしいた場合、どのように対処したか教えてほしい。
→グループにした当初はぎこちない雰囲気があったが、だんだんとなじんでいった。今のところはなじめていない生徒はいない。

○授業全体の感想
高橋伸友　先生（体育）
・小山先生が、分からない生徒に対し、様々な例を使用し、指導をしている様子が印象的だった。
・全体的に生徒同士が相談しながら授業を進められていた。そのような環境作りを普段からしていると感じた。
石﨑絵里香　先生（商業・１Ａ簿記担当者）
・どのクラスでもグループで教え合っていたため、4月当初からの指導の成果が感じられた。
・生徒が以前の内容を忘れていたため、指導案通りにいかなかったのが残念だった。
・一取引ごとに担当を決めて、起票するようにすれば、実社会に即した授業ができたのではないかと思う。
・授業内で、実物に触れることもできたのが良かった。

須田州逸　先生（商業・１Ｃ簿記担当者）
・他クラスの様子を見られて参考になった。
・グループを変えている点が良かった。また、すごく出来ているグループもあったため、普段の授業の取り組みの成果が出ていると感じ、自分の授業でも効果的に活用していきたい。

○1年簿記ではグループワークを多く活用しているのか
石田雄哉　先生（商業・１Ａ簿記担当者）
・１Ａでは授業時は基本的にグループにしている。人数などの条件次第では実施しない場合もある。
・短時間で簡単な説明をし、問題を解かせている。細かい説明はせず、生徒任せにしている。難しい

問題ほど生徒は話し合いをする傾向にあるので、難しい問題は説明している。極端に難しい問題は説明している。

※石田先生は、前学年の時にも同じようなグループワークをさせて、検定の合格率が上がっている。生徒たちの教え合いが深まり、知識の定着につながっていると思われる。

佐藤大　先生（商業・１Ｂ簿記担当者）

・１Ｂでは、役割分担がしづらいところがあったため、ペアワークを多くしている。

・ペアで厳しい時はグループ単位にして、動かしている。

○１年簿記について

櫻庭先生

1年生は11月に日商簿記検定3級を全員受験する予定であるため、検定範囲に追われ、グループワークや内容を深く学習する機会が少なかったかもしれない。ただ、できるだけグループワークや実際のものに触れる授業を担当している先生方が心がけているため、実社会に触れたり、生徒同士のコミュニケーションが取れたりして、授業の進め方としては良いのではないかと思う。この取り組みが11月の検定の合格率に反映されれば、なお良いと思う。

これから特別時間割が実施されるので、実社会に即した授業や理解を深める授業を行いたいと考えている。

○全体総括

教頭　松岡正利　先生

教師が想定した状況と現実の生徒の状況に差があったことが大きかった。以前の内容を忘れてしまったことにより、Ｄ・Ｅ・Ｆ組ともにつまずいてしまい、作業になってしまった。そのため、この授業の前に確認の時間を1時間でも取れていれば、作業にならずに本授業の目的に到達することができたのではないかと思った。本授業を見て、生徒の状況を確認して、指導しなければいけないと痛感した。

良かった点としては、教師の発問に対して、生徒が一生懸命考え、発表してくれていたことがとても良かった。秋田商業高校としても自ら発表できる生徒を育てていきたいと考える。

秋田県教育庁高校教育課　指導主事（商業）　近藤　俊春　先生

ここまでの研究協議会において、教科を超えて意見交換し、成果や課題が明確になったと感じる。これまでに出た意見等も踏まえて、4校時と5校時の授業の評価をしたい。また、研修テーマ「組織的・継続的に取り組む授業改善の推進　～『問い』を発する思考力を育むために　～」と関連付けても評価したい。

4校時の授業については8割の授業を見ることができた。授業によっては7名ほどのグループ活動もあれば、起立解答を求め、文章で解答させるようにしていたり、自分の考えを持つ時間や他者と意見交換をする時間などメリハリをつけている先生が多かった。またＩＣＴの活用も多かった。ＩＣＴの

活用は、秋田県の探究型授業のポイントである、「自分の考えを持つ」・「学習の見通しを持つ」・「集団で話し合う」・「振り返る」の4つの活動を支えるために重要なものになるので、これからも活用してほしい。1人の教員だけではなく、学校全体で取り組むことができているように感じた。今後もＰＤＣＡサイクルを機能させ、より一層の授業改善を推進してほしい。

5校時について、指導観をもとに評価したいと思う。5校時でもＩＣＴが活用されており、普通教室でストレスなく活用できている良い学校例だと思う。しかし、注意しなければいけないのが目標提示についてである。本授業では目標の提示や学習の流れの提示がなかった。そのため、目標をＩＣＴや板書により可視化し、学習の流れも提示できていれば、生徒の学習の助けになると思う。例えば、スクリーンでは授業を展開し、黒板では目標の提示や思考の足跡を残し、学習の手助けとして活用していければ良い。

4つの分担については、生徒に何らかの役割が必ず割り当たるので良かった。本授業のような場合、作業工程を考えて、役割分担を工夫していかなければならない。グループの適正人数は諸説あるが、今回は役割が分担できていたので、人数については適切であったと思う。

内容が多かったのも気になる。1コマで終わるのかという懸念があった。本授業の評価も少し気になる。50分の授業で、取引を伝票に起票する、集計する、メリットについて考えるは多いので、次の時間があるのであれば、まとめの部分をしっかりと行うことで、指導がよりよいものになると思う。集計まではいかなかったが、最後の振り返りで生徒が自分の意見を話していたことは良かった。

教師の想定する状況とズレがあったが、全体を見ながら、学習のヒントを示していたのが良かった。また、途中に軌道修正をして、まとめをできていたのが良かった。目標や学習の流れを提示していれば、生徒が学習の見通しをもち、どの段階の学習かを意識できていれば、振り返りもより深いものになったのではないかと思う。深い学びとは、つながること。例えば、知識と技能をつなげる、知識や技能が場面や状況につながる、授業の知識と技能を実社会につなげるなどである。

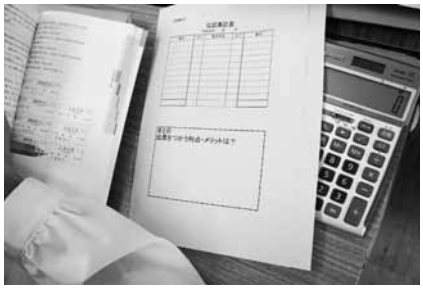
細かいところを言えば、集計表を書く際に、桁が揃わない、カンマがないなどのミスが起きないように指導は徹底してもらいたい。簿記では特に数字のズレがあとで響いてしまう。

秋田県の商業科の教員の2割は秋田商業高校にいるため、指導をより充実していってほしい。

秋田市教育委員会学校教育課主査　指導主事（技術）　庄内　智矢　先生

授業内では、視覚化、ＩＣＴの活用を進めてほしい。しかし、スクリーンでどんどんと流れていけば、生徒には残らない。板書も有効に活用し、授業の終わりに、思考の足跡や授業全体を振り返られるようにしてほしい。

研究授業を見ての評価は、畑澤先生が丁寧すぎて、説明の時間が長かった。そのため、ＰＰなどを作っておけば、説明の手間が省けて、授業が進めやすかったのではないかと思う。



国語科「国語総合」学習指導案

日　　時：令和元年９月24日（火）５校時
対　　象：１年Ａ組
場　　所：図書室
指　導　者：大関　由理
使用教科書：新編国語総合（東京書籍）

１　単元名　古文編　物語　古人の生き方　　「Ｃ読むこと」

２　単元（題材）の目標

①　文章に描かれた人物､情景､心情などを表現に即して読み味わおうとする。　【関心･意欲･態度】
②　文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
【読む能力】（「Ｃ読むこと」の（１）のウ）
③　文語のきまりなどを理解する。　【知識・理解】（〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のア(イ)）

３　取り上げる言語活動と教材

言語活動：古典を現代の物語に書き換えること。（「Ｃ読むこと」の（２）のア）
教　　材：「芥川」（『伊勢物語』）

４　生徒と単元（教材）

(1)　生徒観

男子17名、女子23名、計40名のクラスである。国語に関してはやや能力差があるものの、課題に対して真剣に取り組もうとする生徒が多い。現代文に比べて古典に対する苦手意識を持っている生徒もいるが、『竹取物語』『枕草子』『平家物語』等代表的古文の冒頭文の暗唱には張り切って取り組み、全員クリアしている。説話集『宇治拾遺物語』「児のそら寝」の学習を通して、歴史的仮名遣いに注意しながら正確に音読する力、主語等の言葉を補って適切に現代語訳する力を身につけつつある。また、内容について自ら課題（問い）をたて、考え、答えを導き出すことにより、古典文学に対する面白さを感じ始めている。歌物語については、高校入学後、初めての学習となる。

(2)　教材観

『伊勢物語』は、現存する最古の歌物語である。在原業平をイメージさせる男が、恋の達人たるにふさわしく、気ままに行動する平安貴族の理想像として描かれている。男が生涯に味わったところの、さまざまな思いが、歌を中心にして綴られている。各章段のほとんどが「昔、男ありけり。」、または「昔、男……」で始まることにより、遠い昔の世の物語であるかのように虚構性を持たせている。事実と虚構がないまぜになった叙情豊かな物語である。

俵万智は『恋する伊勢物語』の中で、「物語が首尾一貫したつくりであることを拒否しているかのよう」、「『むかし』『男』と表現することにより、業平一個人から離れ、虚構性を保証している」「基本的には､一段一段を独立させて読んだほうが､かえって全体を楽しめる」と評している。

「芥川」では、長年思い続けていた高貴な女性をようやく盗み出して、夜、逃避行を続けるが、雨宿りをしている間に、女を鬼によって一口に食われてしまった男の悲嘆と絶望が描かれる。嘆き悲しむ男の心情が和歌を通して強く伝わってくる題材である。

本教材の学習を通して、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう力を身につけることにより、物語として古典を読む面白さを体験させたい。

5　単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。 内容のＣ（１）のウ	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 内容のＣ（１）のウ	・文語のきまりなどを理解している。 〔事項〕（１）のア（イ）

6　指導と評価の計画（全６時間）

次 (時間)	具体的な評価規準と評価方法	学習活動
1 （2）	【具体的な評価規準】 ・文語のきまりなどを理解している。 （知識・理解） 【評価方法】 「記述の点検」	○学習の見通しを立てる。 ・単元の目標について理解する。 ○文法や語句を確認し、文章の内容を確認する。 ・文法事項については説明を聞き、重要語句については個人で調べ、現代語訳（全訳）を完成させる。
2 （3）	【具体的な評価規準】 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 （読む能力） 【評価方法】 「行動の観察」 「記述の確認」	○文章に描かれた人物、情景、心情を読み味わう。 →手立て（取り上げる言語活動） 「物語を書くー『芥川』を自分の言葉で書き換えよう」 ①構想メモを作る。 ※心情を読み取る上での疑問点(問い)は、話し合いや調べ学習により解決する。 ②物語を創作する。 **③物語を相互に読み味わい、グループ代表が発表する。(本時)**
3 （1）	【具体的な評価規準】 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。(関心・意欲・態度) 【評価方法】 「記述の分析」	○学習の振り返りをする ・単元（教材）を通して学んだことを「振り返りシート」に記述する。

7　本時の計画（第２次　第３時）

⑴　本時の目標

「芥川」に描かれた登場人物の心情を読み味わうことができる。

【読む能力】(「Ｃ読むこと」の（１）のウ)

⑵　手立て（取り上げる言語活動）

「古典を自分の言葉で書き換える」(「Ｃ読むこと」の（２）のア)

・古典を自分の言葉で書き換えるということは、もとの作品では直接語られていない要素をも、自らの想像力で補っていく作業である。そのような活動を通して作品を読み深め、古典に描かれた世界と現代との相違点や共通点を考える。

・古典をより深く鑑賞し、また、自ら創造する楽しみを味わうために、自分の言葉で書き換えた新たな作品を作り上げる。

課題 「芥川」を自分の言葉で書き換える。

「登場人物の一人を選び、その人物が心の中で思っていることを語るような形式で書こう」

①人物や場面などの設定を確認する。
②「男」「女」のどちらか一人を選び、人物像や心情（気持ち）を想像する。
・語られていない心情は想像するしかない。語られていない部分を想像する際に、本文の正確な読解が基礎になることを忘れてはならない。場面や人物設定に無理はないか、本文で語られていることと矛盾しないかなどに注意する。
・あくまでも『伊勢物語』の世界での話であることに留意し、その中における登場人物の心情を思い描く。
※心情を読み取る上での疑問点（問い）は、話し合いや調べ学習により解決する。
③選んだ人物を主人公にして、文章を書く。
・主人公の気持ちが表れるように書く。
・回想を誰かに語りかける、独り言を文章にするなど、書き方を工夫する。
④書いた作品を互いに読み合い、気づいた点などを話し合う。
・もとの作品を踏まえた内容になっているか、登場人物の気持ちが自分の言葉で描かれているかに注目する。
⑤生徒間で選んだ推薦作の朗読会
・自分と違った読み方があることに気づくことで、作品の理解度も深まる。

（３）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
導入 5分	1　音読する。【2分】 2　前時までのおさらいをする。【2分】 3　本時の目標と課題を確認する。【1分】	・全員読み ・前時までの学習事項をＰ・Ｐで確認する。 目標「芥川」に描かれた登場人物の心情を読み味わう。 課題「芥川」を自分の言葉で書き換える。→発表 ※登場人物の気持ちを自分の言葉で描き出す。		
展開 40分	4　前時で創作した物語を相互に読み合う。【15分】 5　グループ代表が発表する。【25分】	・発表する人はその場で立って発表するよう指示する。 ・相互評価し、グループ代表を決めさせる。 ・推薦理由も発表させる。 ※時間に余裕があったら、現代作家が訳した「芥川」を紹介する。	・「芥川」に描かれた登場人物の心情を表現に即して読み味わっている。【読む能力】	行動の観察
まとめ 5分	6　本時の振り返りをする。【3分】 7　次時の予定を知る。【2分】	・「振り返りシート」に記入させる。 ・「本時の目標」に対する振り返りであることに注意させる。 ・単元（教材）を通して学んだことを記述し、発表することを伝える。		

資料　①

『国語総合』古典「芥川」

物語を書く ー 「芥川」を自分の言葉で書き換えよう。

年　組　番　氏名

構想メモ

①どんな出来事があったか簡単にまとめてみよう。

②登場人物の身分や立場、置かれた状況を読み取ろう。

男	女

③登場人物の心情を読み取ろう。

心情が現れている部分（行動や言葉、情景描写など）　→　そこから読み取れる心情	男	女
【疑問に思ったこと・わかったこと】		

④登場人物の中から、一人を選ぼう。→ 主人公

物語を書こう

【ポイント】
・「構想メモ」を基に、主人公の気持ちが表れるように書く。
・教科書ｐ304を参考にして、書き方を工夫する。
・もとの作品を踏まえた内容にする。

四百字

六百字

資料 ②

『国語総合』振り返りシート

教材名「　　」

教材目標【　　】

年　　組　　番　氏名

1	月　日 校時	
2	月　日 校時	
3	月　日 校時	
4	月　日 校時	
5	月　日 校時	
6	月　日 校時	
7	月　日 校時	
8	月　日 校時	
9	月　日 校時	
10.	月　日 校時	
まとめ	月　日 校時	

書き方

右の欄▽「本時の目標」を書く。

左の欄▽その時間を振り返り、気づいたこと、考えたこと、学んだこと、身についた力、あるいは、わからなかったこと、などを文章で書く。

まとめ▽教材への取り組み全体を振り返り、「教材目標」に対する達成状況や、考えたこと、学んだこと、身についた力などについて記述する。

その際、必ず、二文で書き、文と文とを接続詞でつなぐ。

例：だから、そこで、したがって、ゆえに、など（順接）

しかし、だが、ところが、でも、など（逆接）

また、および、かつ、など（並列）

そして、それに、それから、しかも、そのうえ、など（添加）

一方、逆に、反対に、など（対比）

または、それとも、あるいは、もしくは、など（選択）

なぜなら、というのは、など（説明）

ただし、もっとも、ちなみに、など（補足）

つまり、すなわち、要するに、など（換言）

例えば、いわば、など（例示）

それでは、では、さて、ところで、など（転換）

授業者より補足説明

【教材選定理由】

〇年間指導計画通りの教材

※「H29・30の学力学習状況調査結果」より

得点状況ー現代文分野はまずまずだが、古典分野が芳しくない。

→　古典嫌いを作らないよう、話の内容の面白さを味わわせることを重視

【指導案作成にあったって】

〇現行指導要領

〇「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校　国語)」

H24年３月　国立教育政策研究所　教育課程研究センター

・県教育センター研修講座用指導案

・全国高等学校国語教育研究連合会秋田大会　大会集録

・「研修集録」

→　書き込みすぎたきらいはあるが、自分にとっていくらでもわかりやすいように

【重点的取り組み事項　】

〇指導要領に則った授業

〇今年度研修テーマ「組織的・継続的に取り組む授業改善の推進

～『問い』を発する思考力を育むために～　」

→　普段の授業では、教材に対する疑問点やみんなで考えたいことを生徒から出させて、それについて、考え、話し合い、答えを出していくという授業を行っている。

今回は､物語を書く前に｢構想メモ｣を書かせたが､登場人物の心情を読み取っていく際に､各々が疑問（問い）を持ち、それについて、『便覧』やｉＰａｄなどで調べたり、グループで話し合ったりして答えを出していくという活動を行った。

〇「振り返り」をする

※「Ｈ２９・３０の学力学習状況調査結果」より

国語に対する意識調査において､「授業の振り返り」に関する評価がやや低かった。→　国語科では､「振り返りシート」を導入し、毎時間の振り返りを１～２行程度で記入させることを検討しようということになった。

【授業するにあたって大変だったこと】

〇グループ作り　ー　悩みの種

インクルーシブ関係の本、アクティブラーニング関係の本を参考にいくつか試行

例１）クラスの人数をＡグループＢグループ二つに分ける。

全員が廊下に出て、先にＡグループが奇数列の好きなところに座って席を決める。Ａグループは廊下に出て、次にＢグループが偶数列の好きなところに座る。

Ａグループがもう一度さっき座ったところに座る。

→　仲の悪い者同士が隣になってしまった。

例２）５～６人のグループを組みたかったので、

女子・男子それぞれ仲良し２～３人グループを作る。

女子が先に席に着き、その後男子が席に着く。

→　うるさい者同士がグループになってしまい、うるさいの相乗効果

⇒　人間関係が決まってしまっているクラスにおけるグループ分けが大変

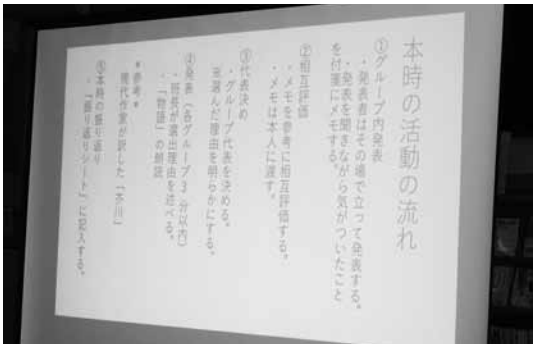
結局クラスの座席通りのグループに落ち着いた。ただし、グループ内の人間関係には考慮した。

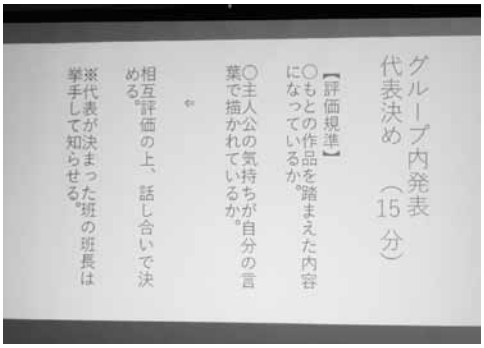
【授業をしてみて】

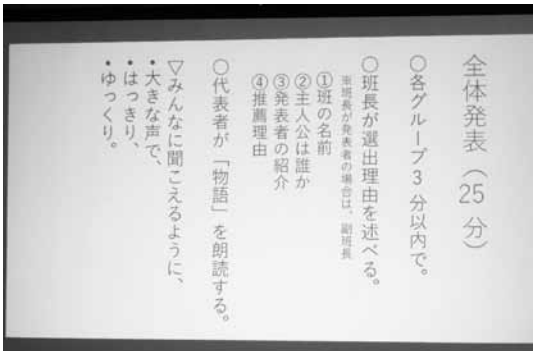
注目している生徒が一人いて、その生徒がやる気になるか、ならないかが授業を決定づけるくらいの気持ちで臨んだ。

→　発言する機会もあり、それなりに取り組んでいた。

全ての授業終了後、グループ代表になった「物語」の原案に大きく関わっていたことが判明。「やる気」は十分にあったと評価できる。







指導主事訪問協議会（国語科）

日　時：令和元年９月24日（火）14：45～15：35
場　所：秋田市立秋田商業高等学校　語学室
司　会：奥山桃子　記録：戸澤恵、近野祥子

奥山先生　指導主事の先生方の紹介。本日の流れの説明。

大関先生　重要視したこと
①指導要領にのっとった授業をしよう
②本校の目標「問いを発する」を意識した授業をしよう
③振り返りを重視しよう（本校の学力状況調査結果より必要性を感じたため）

・グループの作り方をどうしているかお伺いしたい。いろいろ工夫しているがうまくいかない。
・注目している１人の生徒の授業への参加をもって授業の評価をしたいと思っていたが、今日の様子を見るとまあまあかな、と感じた。
・指導案やプリント（構想メモ）を作成する際、国語科の協力があり、ありがたかった。

小林先生
・「古典嫌いをなくす」という工夫がよくなされていた。
・ 創作する段階で、お互いの共通点や相違点を読むことで、読みが深まったのかな、と思った。

櫻田先生
・登場人物の誰の視点で書くのかをどのように指定したのか気になって見ていた。
・中には作品から離れてオリジナルの物語を作っている生徒がいて、想像力や表現力のすぐれた生徒があり面白かった。

髙田先生
・同じような内容の物語ができるのではないかと思っていたが、そういうこともなく、面白かった。
・理科でグループを作る時は４人以上にならないように（暇な生徒が出ないように）しているので、今回は「聞く」授業だったので大丈夫だったが、人数設定（５人などもいる）も新鮮だった。
・目標に対してどう評価するのかという点が気になった。

船木先生
・とても面白かった。構想メモをどのように作り上げていったかを見たかった。

筒井教頭
・授業改善に向けた取り組みが見られて、よかった。
・指導案を見た段階では難しい内容に感じられたが、生徒の発表を見てみると非常に創造力（想像力）豊かな発表がなされたことに感動した。
・他教科においても授業改善に取り組まれることと思うが、これまでの授業のやり方に凝り固まらないなにかしらの工夫を重ねていってほしい

【秋田県教育庁高校教育課　指導主事（国語）櫻田　瑞子　先生】

よかった点　①生徒の実態を検証して、「古典嫌いを作らない」授業を作ろうとし、それに成功している。

②導入がすばらしかった。見通しが視覚で提示されていてよかった。

③言語活動をふんだんに取り入れているところがよかった。

気づいた点　①せっかくの発表なので、みんなに聞こえるように発表するよう指導してほしい。

②生徒が早口だったので、書いたものを回して読む、などじっくり読ませるようにすればよかったのでは。

③「心情を読み味わう」目標に対する評価をどうするのか。何をもって評価するのか。組織的に授業改善に取り組んでいる様子がわかり、よかった。

【秋田市教育委員会学校教育課主査　指導主事（国語）横山　靖子　先生】

・「いつ・どこで・誰が」が詳しく書かれていないので、心情を読み味わうには適した教材であった。

・表現に即して物語を作るからには、踏まえなければならない要素があるので、生徒の中にもそこに気づいて指摘していたグループもあったが、抑える要素があってもよかったのでは。

・個々のグループだけではなく、全体で取り上げる場面があってもよかった。

・内容理解があった上で、再度音読してもよかった。

指導主事訪問全体協議会

日　時：令和元年９月24日（火）15：45～16：30
場　所：秋田市立秋田商業高等学校　会議室

１　校長より指導主事の先生方の紹介

２　指導助言　　秋田県教育庁高校教育課　指導主事（国語）櫻田 瑞子 先生

本日は秋田市教育委員会の計画訪問にお招きいただきありがとうございます。本日は研究授業の準備と実施それから日程の調整等、きめ細かな対応、本当にありがとうございました。御校のこれまでの取り組みが分かる資料もご用意いただきました。資料を拝見することで学校の状況や先生方が取り組まれている課題等も知ることができ、その上で授業を拝見することができましたので、大変有意義な一日を過ごすことができました。重ねてお礼申し上げます。この全体会の前に行われました授業の協議会では今年度の御校の研修テーマ「組織的・継続的に取り組む授業改善の推進～『問い』を発する思考力を育むために～」を踏まえ、教科を超えて授業に対する意見が述べられ、有意義な会となりました。生徒の学びの質を高めていくためには本日の授業研修会のように日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取り組みを活性化していくことが重要であります。ぜひ今後とも検証を踏まえた授業改善の取り組みをお願いいたします。この全体協議会では、新高等学校学習指導要領や国の動向にも触れながら授業の感想等についてもお話しさせていただきたいと思います。御校が取り組んでいる組織的な授業改善、キャリア教育の一層の充実に少しでも参考になれば幸いであります。さて、今年も８月に秋田県高等学校新学習指導要領説明会が国際教養大学を会場に行われました。ご多用の中たくさんのご出席をいただきありがとうございました。社会状況の変化に対応した今回の改定は、これからの時代を生きる高校生の資質能力の育成に向けた大きな改定であります。昨年の高校教育課から参りました者がお話しさせて頂いておりますし、先生方ももうご存じのこととは思いますが、改めて確認させて頂きます。改訂の基本的な考え方は３点ございます。１点目はご存じのように資質能力の整理であります。これまでは何を学ぶかが中心でしたが、これからは何ができるようになるかという視点が必要になります。生徒たちが予想困難な社会の変化に、主体的に関わり、より良い社会と幸福な人生の作り手となれるよう、資質能力を知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等、の３つの柱に整理するとともに、各教科の目標や内容についてもこの３つの柱に基づいて再整理しております。２点目は主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進であります。高校の学習の質を一層高める授業改善の取り組みに加え、大学入試改革等の高大接続改革を一体的に行うことで、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質能力の育成を目指しております。３点目は各校におけるカリキュラムマネジメントの推進であります。各学校が生徒や地域の実態を的確に把握した上で、学校の教育目標を設定し、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラムマネジメントは、今回の改訂全体の理念と深く関わるものであります。授業を中心に見据えて特別活動や部活動といった教育活動の全てが、各校の校訓や教育目標の下に示された、目指す生徒像の実現を目指し、今年度の重点目標と併せて行われることがカリキュラムマネジメントの基本であります。

さて、御校の今年度の研修テーマは「組織的・継続的に取り組む授業改善の推進～『問い』を発する思考力を育むために～」でありました。問いを発する子どもの育成と、地域に根ざしたキャリア教育の充実は、全教育活動を通して取り組む秋田県の最重要の教育課題であります。問いを発する子ども、すなわち問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく子どもを育成するための授業改善の視点は、新学習指導要領に示された、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた方向性と軌を一にしているものであります。

本日の授業を参観させて頂きました。わずかな時間でしたけれども参観させて頂きまして、教科でよく話し合われて授業改善を進めているなと思われる授業、それから生徒の視覚に訴える授業、これ

はユニバーサルデザインの視点を取り入れている授業と言えると思います。それから積極的に話し合う活動、適切な場面で話し合う活動を取り入れた授業、言語活動を意識した授業等が行われておりました。たくさんの良い授業がありましたが、まだまだ教科での話し合いが必要だなと思われる授業、単元の見通しを持って進めて頂きたいと思われる授業がありました。主体的・対話的で深い学びは必ずしも１時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で習得・活用・探求のバランスを見通して進める、すなわち単元としての授業デザインが求められます。数コマの授業のまとまりの中で、この習得・活用・探求のバランスを工夫し、単元のゴールを明確にすることが重要です。教員が見通しを持つことと、生徒に見通しを持たせること、この２つが重要になります。そのためには各教科の各単元の中で、何年生のどの時期にどういった力を高めたいかを教科として話し合い、年間指導計画を作成し、実践し、検証し、改善していくことが必要になります。ぜひ充実させた年間指導計画を作成して頂きたいと思います。

また、高大接続に関しましてですが、平成２９年７月に文部科学省から、平成３３年度大学入学者選抜実施要項の見直しにかかる予告について、と通知されております。現在の高校２年生の入試ですが、入試改革がいよいよ迫ってきております。予告されております内容は、一般入試の改善です。筆記試験に加え、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度をより積極的に評価するために、調査書や志願者本人が記載する資料等の積極的な活用を促すことになっております。この志願者本人が記載する資料というのは、エッセーや面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション、各種大会や顕彰等の記録、総合的な学習の時間等における生徒の探求的な活動の成果等に関する資料やその面談等が示されております。これは各大学の入学者受け入れの方針に基づいて行われるものですが、調査書や志願者本人が記載する資料等をどのように活用するのかについては、募集要項等にこれから明記されることになっておりますので、注目していきたいところであります。また、新学習指導要領の移行措置として、今年度の１年生からは総合的な探求の時間が始まっております。御校ではすでにビジネス実践や課題研究を進めておりますが、探求における生徒の学習の姿としましては、①日常生活や社会に目を向けた時にわき上がってくる疑問や関心に基づいて課題を見つける、②情報を収集する、③その情報を整理分析し、課題解決に取り組む、④まとめ、表現する、また新たな課題を見つける、そしてまた①に戻る、この①②③④のサイクルを続けていくことが探求活動だというふうに示されております。御校ではすでに実施されていることだとは思いますが、ぜひ商業高校としての特色を生かし、ビジネス実践やボランティア活動、インターンシップ等を通じて地域貢献に積極的に取り組み、こうした特色ある取り組みの資産をさらに活用し、教科学習のみならず、総合的な学習あるいは探求の時間や特別活動、部活動、全ての教育活動の中で特色ある資質能力を今後さらに伸ばして頂ければと思います。来年度１００周年を迎える秋田商業の益々の発展を祈念したいと思います。本日はありがとうございました。

３　総評　　秋田市教育委員会学校教育課主席主査　指導主事　畠山　勇人　先生

本日は朝から私たち５名がお世話になりありがとうございました。本日は朝から生徒が元気に迎え入れてくれました。3年前の教え子が「先生、私コジマ電気に就職することになりました。来てくださいね。」と言われました。商業に入って良かったね、という嬉しい気持ちになって１日を過ごさせてもらいました。

先生方におかれましては新人戦に対する部活動指導、１年部は薬物乱用防止教室、その他進路に向けた会議、AKISHOP、キッズビジネスタウンなど様々な準備で忙しい中、校長先生、教頭先生を始めたくさんの先生方に細やかな心遣いをいただいたこと、これまでの準備や本日の授業に向けてのご労苦に対して心より感謝申し上げます。またこの三連休において硬式野球部が東北大会出場を決めて選抜大会への望みをつないだことや、水泳部の活躍が新聞等で見られたこと、世代交代が見られる部活動においても自分を磨き続ける秋商イズムが見られたこと、先輩から後輩へ受け継がれていることを嬉しく思います。

私からは本日の総評として２つ話をさせていただきます。１点目は校内を一巡しての感想、２点目

は秋田市教育委員会からのお願いであります。まず１点目の学校経営説明と校内を巡回しての感想です。石井校長先生から伺った学校経営説明について本市の教育の重点と併せてお話しさせていただきます。本市では今年度秋田市教育ビジョンというものに基づいて、学校教育の目標を志を持ち、徳･知･体の調和のとれた子どもを育む学校教育の充実として次代を担う人間性豊かな子どもを育んでいきたいと考えております。とりわけ本市では徳を生きていくための原動力と考えており、この度新学習指導要領で人間性の涵養が付加されたことは、本市の目標が国の考えたものと同じである、を意味しているものと考えます。経営説明の際、石井校長先生からは感謝・勤勉・鍛錬といった本校にとって不易なもの、これを大切にし続けていきたい、そして豊かな心を育む教育活動を充実させていきたいというお話がありました。本校の特色や生徒の実態を踏まえた、キャリア教育のより一層の充実を図り全ての先生方の連携のもと着実に行われていることがうかがえました。

多忙化防止に関してのお話もありました。ペーパーレスの会議や部活動の休養日、最終退勤時刻、学校行事の効率化スリム化を図り働きやすい職場環境を作ることを重点としていることについてお話がありました。子どものためであればどんなに時間がかかっても仕方が無い、教職員としての使命感を持って働くことは素晴らしいことだけれどもそうした考え方によって時間外労働が重なって職員自体が疲弊するのであれば直ちに改めなければなりません。学校において業務改善に取り組むに当たってはこれまでの常識や慣例にとらわれない大胆かつ柔軟に取り組まなくてはならない。現在実施している取り組みについて目的に応じて見直し再編成、合理化、焦点化することは学校経営の観点において重要だと考えます。また研究の重点についてもお話しいただきました。本時の目標を提示し共通理解のもと授業の導入に入る、生徒の「なぜ」を引き出す発問の工夫をすること、子どもが主体的に取り組むような場面や時間を設定すること、振り返りを大切にすることなどです。小中学校においても見方考え方をはたらかせた言語活動の充実により問題解決のプロセスを意識した授業作りが行われております。そのような子たちが２，３年後高校へ上がってきますので研究を続けていただきたいと思います。

次に本日参加した授業について話をさせていただきます。特定の授業については協議会でお話しされていると思いますのでその他の一部の授業についてお話しさせていただきます。各学年、２点ほどお話しさせていただきます。１年Ｃ、Ｄ組の数学の授業では二次関数に関する授業でしたが、式の途中で両方にｙをかけている生徒がいましたが、先生が答えだけでなく途中の式に着目させて指導している場面がありました。また本時の目標が明示されており、子どもの言葉を拾いながら授業していました。１年Ｅ、Ｆ組の英語の授業では、守屋先生がまずは日本語を並び替え、次に英語を並び替えるというスモールステップで授業が展開されていました。石塚先生の授業では少人数でコミュニケーションを取りながら活動に当たっていました。２年生の財務会計の授業においては、２クラスを４展開していましたが全てのクラスで目標がきちんと掲げられておりました。こちらも生徒の言葉を拾いながら授業を進めておりました。２年Ｃ組の小林先生の日本史では、見やすいプレゼンが行われていました。漁夫の利の風刺画を見せたときには、生徒たちが顔を上げる場面が見られ、教師が生徒の関心を引き出すことが出来ており、生徒の興味を引き出す素材提示の工夫を続けていってほしいと思いました。１年生の保健の授業でもそうでしたが、スクリーンが見やすいように机を移動させるなどの配慮も見られました。生徒主体の授業をこれからも続けていってほしいと思います。３年生の近野先生の現代文の授業ですが、効果的な表現を学ぼうという目当てが掲げられていました。教師と生徒、生徒と生徒が同じ話題について考え話し合う場面が見られました。「先生、質問します」という声も聞かれ生徒主体の授業が展開されていました。Ｅ、Ｆ組の先生方の板書がとても丁寧でノートに書き取りやすい状況だったのが心に残っています。全ての授業においてみられた生徒が懸命に取り組む姿勢というのは、生徒の学習意欲を高めより深く理解することが出来るような深い学びを実現させたいという先生方の真剣な思いであったと感じます。

最後に教育委員会から２点お話しします。１点目は秋田市学校教育の重点についてです。この冊子は秋田市内の小中学校の全てに配布されています。前文の豊かな人間性に関わる部分は、道徳教育の充実、絆作り、人間関係を築く力の育成について、この冊子を使ってお話ししているところです。この冊子の 25 ページ以降のところには教育相談の充実、いじめ防止の対策、不登校児童生徒への支援

について、校種を超えて取り組みのヒントになるのではないかと考えています。また発達障害と疑われる生徒の気になる行動への対応など、教育に携わる者として押さえていただきたい部分ですので時間のあるときに目を通していただきたいと思います。2点目は生徒の命を守ることについてです。今年度の初めに川崎市でスクールバスを待っている児童が通り魔によって犠牲になる事件がありました。あの事件のように殺傷を目的として、学校外においての場合、学校として命を守るのは難しいという風に思います。とはいえ本市において同様の事件が起こる場合も考えられるので、我々教職員が危機意識を高めるとともに、生徒の安全確保の連携について保護者や地域の方と協議し、生徒自身に自分の命は自分で守る方法について具体的に指導していくことが必要であると考えます。また昨年度末警視庁が自殺死亡率の10代が昨年度を上回ったと発表しました。そして19歳以下で最も多い原因が学校問題であります。生徒が毎日元気に登校してくることがいかに幸せなことであるかと感じているところです。一般的に自ら命を絶つ生徒は自己肯定感が低いと言われています。自己肯定感の低い生徒が自分はかけがえのない存在であると感じるためには、自分は誰かの役に立っていると感じる自己有用感が大切です。本校の生徒はAKISHOPやキッズビジネスタウンなどの取り組みを通して、多くの方々と触れ合い、その中で人の役に立つこと、互いに助け合うことの大切さを身につけております。こうした関わりの中で土台となるのは、3年間の中で礼儀・マナーを大切にする秋商生としての立ち振る舞いであり、先生方の指導の賜と考えております。どうか今後も社会人としての基礎力を身につける教育を継続するとともに、生徒一人一人の自己有用感を高める取り組みを大切にしていってほしいと思います。私の同僚に、秋田市教育委員会に本校の卒業生がおります。本日の訪問を前に「秋商生として誇れるものは？」と問いかけてみました。すると「マナー、ルールを守り礼儀正しい。社会で通用する人間になるため努力する。」という答えが即答で返ってきました。このことは各学年の基本方針として本校の要覧に記載されているものです。時代は平成から令和に変わり、来年は100周年を迎えます。私の同僚にとって本校で身につけたことは、時代が変わっても変わることのない誇りと自信になっていると感じたところであります。この誇りと自信は秋商魂として永遠に生徒と教師が共有しながら受け継いでいっていただきたい大切なものと考えております。

新学習指導要領移行にあたり、とかく資質・能力や主体的・対話的、深い学びなどのキーワードが多く語られているため、どんな力を身につけさせるのか、どうのように教えるのかに意識が行きがちですが、それよりも大切なものがあると思います。それは目の前にいる生徒に応じた授業作りや生徒ありきの授業であると考えます。そのためには目の前の生徒が何に興味を持っているのか、どのような見方・考え方をしているのかを日頃からよく観察することが大切です。それは特別なことを何かするのではなくて、ちょっとした時間に話しかけてくる生徒の話や、部活ノートやアンケートなど様々な場面から捉えることが出来ます。そのためには教師と生徒との温かい人間関係、信頼関係が必要となります。つまりは学級作り、授業を通じた人間関係作りが大切です。生徒は自分に対して愛情を注いでくれる大人には心を開いて話しかけてくれるものです。生徒は何を学びたいのか、何が出来るようになりたいのか、といった実態を踏まえた授業作りを行ってほしいと思います。主体的で深い学びもその延長線上にあるのではないでしょうか。御校におかれましても、今後も管理職の先生を中心に組織的な学校経営のもと、先生方が仲良く何事にも一生懸命取り組む姿を生徒に示し感謝・勤勉・鍛錬を具現化させながら心身ともに健やかな生徒を育てていけるように、健康には十分に留意されますますご活躍されることを願いまして総評とさせていただきます。本日はありがとうございました。

第１回校内職員研修

「Portfolio の有効活用に向けて」

講師：株式会社ベネッセコーポレーション
東北支社高校営業部　**原　野　忠　久 氏**

本日のコンテンツ

教育・入試改革に関する情報提供
・教育改革・入試改革について
・多面的総合的評価について
・ポートフォリオの役割と主体的に学ぶ生徒の育成～質の高い振り返り～

教育改革・入試改革について

ドローンで荷物配達、コンビニの深夜レジの無人化、自動運転サービスなど、これまで経験したことのない速いスピードで、経験したことのない世界がやってくると言われている。ＡＩやロボット技術が進歩し、すべてのものがＡＩを通じて動く時代、そんな社会の中で、資質や能力を発揮し、次なる社会を創出することが必須だとされる。

新しい時代に必要となる資質・能力を育成するためには大学で学び身につけるべき力も変わる。今回の入試改革の背景には、新たな時代に必要となる資質・能力の育成ために必要とされる学力の３要素を、大学入学共通テスト、英語の資格・検定試験、多面的・総合的評価入試の３つの観点で判断するというものである。

多目的総合的評価について

入試改革にともない、すべての入試区分で学力の３要素が求められることになる。一般入試は一般選抜、ＡＯ入試は総合型選抜、推薦入試は学校推薦型選抜と名称を変更し、その全ての入試区分を見直す。具体的には、一般入試において「調査書や志願者本人の記載する資料等」の積極的な活用、推薦・ＡＯ入試において「学力不問」につながる記載の削除などを検討している。

調査書・提出書類の改善について主なポイントは、調査書の両面１枚制限を撤廃し、「指導上参考となる諸事項」の記載欄を拡充する。また、推薦書には学力の３要素についての記載を必須とすることを検討するほか、調査書の電子化のあり方についても検討される。新高校１年生から調査書の形態が変わり、具体的な内容や生徒の特徴についての記載が求められる。現行の１各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等、２行動の特徴、特技等、３部活動、ボランティア活動等の３つに加えて、各教科・科目等に関する学習状況の様子や特徴（積極性）などを具体的にする、学校内外における活動の状況や特徴（積極性）など、部活動やボランティア活動等の具体的な取組内容、実施期間、その活動における特徴等を記載する改正案が検討されている。

「主体性を含む多面的総合的評価」の開発が進む中で、ＩＣＴを活用し「主体性等」を評価する入試学者選抜モデルの取り組みとして、高大接続ポータルサイト「ＪＡＰＡＮ　ｅ―Ｐｏｒｔｆｏｌｉｏ」の活用が進められている。これは、大学入学者選抜に活用できる仕組みを目指し構築中の高校ｅポートフォリオ・大学出願ポータルサイトで、生徒が主体性等に関わる諸活動をポートフォリオに記録し、大学入学者選抜において、学力の３要素、とりわけ「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を適切に評価し多面的・総合的評価の実現に貢献することを目指すものである。今後、大学は主体性の評価を入試で行い、大学教育に活用していくとしている。

ポートフォリオの役割と主体的に学ぶ生徒の育成

高大接続改革への活用とともに、高校教育における活用にも注目が集まっている。これまで生徒は志望大学が決まってから志望理由や頑張ったことを振り返ることが大半であったが、これからは高校１年生から様々な活動を行い、履歴を蓄積する必要がある。また、活動履歴を振り返り学びを深め、提出書類に反映させる必要がある。教師もこれまでは高校３年生になってからクラス担任が準備を始めていたが、これからは高校１年生から生徒の様子を記録・蓄積していき、その履歴を活用して調査書に記録する必要性がある。このことから、生徒が主体的に履歴を残す仕組みとしてｅ－ポートフォリオの活用に注目が集まっている。

スタディサポートの成績を分析すると、「成績の向上」と「振り返りの質」には関係がみられることが分かった。成績が上昇した生徒が重視している学習行動を見ると、「記録に残す、自分なりに調べている、あきらめずにやりぬく、自問自答する」生徒が多く、どうするべきかに気づき、学んだ教訓をもとに次への計画を立てられる生徒が成績を伸ばしている。このことから､ポートフォリオの｢振り返り」には自らの学習活動を主体的に振り返り、本質的な問いを投げかけ、自分なりの解答・教訓を記載することが大切なのだとわかる。この振り返りを生徒自身が行いその質を高めることが重要だが、共同研究から得られた生徒の振り返りの質の壁となっているのが、①生徒任せでは「振り返らない」、②「振り返りが感想だけに終わる」、③「良い気づきでも、見方・考え方が変わらない」という３つの点である。これらの課題を解決するためのポイントとして、①振り返りの機会を作る、②他者視点を入れる、③学びの総括を節目にいれることが求められる。

以上のことから、生徒にポートフォリオを活用して振り返りの質を高めさせるためにも、①振り返りの機会を作る、②他者視点を入れる、本人が気付いていない変容に気付かせる、③学びの総括を節目にいれる、以上のことが重要であるといえる。

最後に

昨年度から引き続きポートフォリオの活用についてお話しした。来年度の入試制度改革に向けて、先生方にはぜひポートフォリオを活用し、生徒の学びの質の向上、振り返りの質を高める指導をして頂きたい。現段階で大学入試にポートフォリオを活用すると答えている大学一覧はウェブページに記載しているのでそちらを確認して欲しい。

第２回校内職員研修

「不登校の未然防止と再登校援助」

講師：秋田県総合教育センター
支援班　主任指導主事　**村　松　勝　信　氏**

１　実施日時・場所

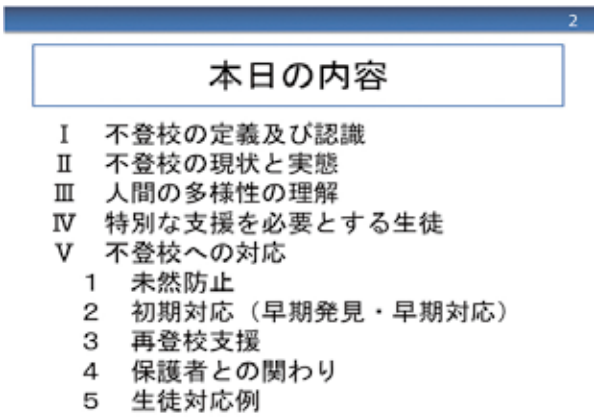
令和２年１月１４日（火）１５：３０～１６：５０（場所：会議室）

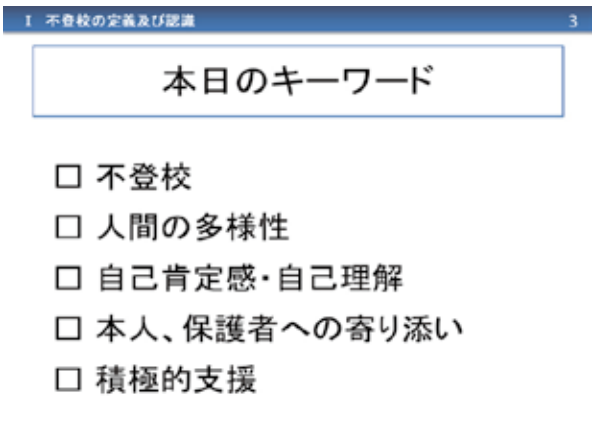
２　講演会（要旨）

年々、不登校傾向の生徒が増えており、担任、及び、学年は対応に苦慮している現状がある。不登校生徒を支援する際の具体的手立てについて学ぶとともに、不登校を生まない学級づくりについて、あるいは、学校全体として取り組むべきことについて、共通理解を図る。

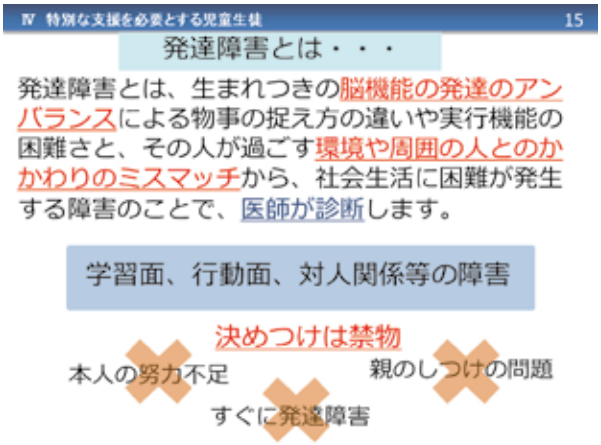
３　内容・質疑応答

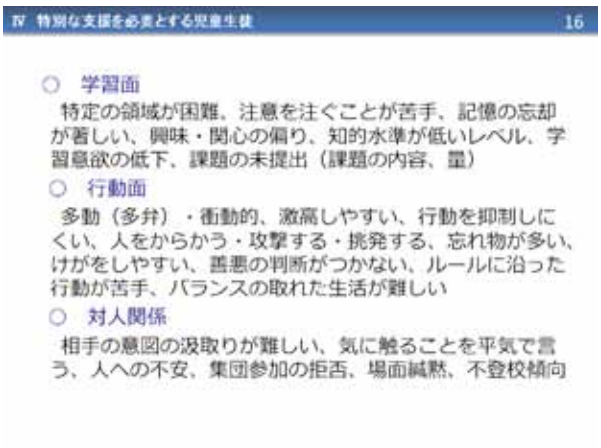
講演内容は以下の通りである（講演資料一部抜粋）。また、研修会後、参加者から寄せられた質問に対して回答していただいた。





●障害につて





Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 17

周囲の誤解を招きやすい特性

- 衝動性の高さ → がまんが足りない
- 学習に必要な力が弱い → やる気がない
- こだわりが強い → わがままだ
- 距離感が理解しにくい
- 他者認知の力が弱い
→ 失礼な言動が多い
- 感情の安定性が低い → 人を見て対応を変える

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 18

診断にこだわることの落とし穴

障害の有無ばかり注目

「障害」だからしかたがない

妙に分かった気になる

生徒の特性に合わせて対応していく！

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 19

・多くは、発達障害との診断がない。
・発達障害の特性を示す生徒は少なくない。
・発達障害又はその傾向がある児童生徒が、教育環境や家庭環境等において、二次的に生じる障害を抱えるケースは多い。
（不登校、頭痛・腹痛等の身体症状、不眠、不安障害、対人恐怖症、自己肯定感の欠如、学習意欲の低下、学業不振、課題未提出、真実とは言えない発言、場にそぐわない言動等）

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 20

発達障害等の障害とは？

弱　（障害特性）　強

定型発達（健常者）　障害（に悩まされている）　障害

・区切りがあいまい（診断基準はあるが、診断が難しい）
・連続性、多様性がある（ASD≠不登校）
・環境による大きな影響（人、学習内容、手立て）

●不登校について

Ⅴ 不登校への対応 2 初期対応（早期発見・早期対応） 64

不登校「3つのタイプ」

八巻 秀（駒澤大学 教授）

「学校に行かない」タイプ
・ともかく学校に行きたくないという気持ちが強い

「学校に行けない」タイプ
・症状などがあり、学校に行きたいが、行くことができない

「気力がない」タイプ
・やる気が出ない、生きる気力そのものがない

おおざっぱに「3つのタイプ」のどれかを判断

それぞれのタイプに合わせて、対応を変える必要

Ⅴ 不登校への対応 2 初期対応（早期発見・早期対応） 65

タイプを踏まえた対応

「学校に行かない」タイプ
・登校刺激を与えながら、様子をうかがう

「学校に行けない」タイプ
・見守りながら、登校刺激のタイミングをはかる

「気力がない」タイプ
・まず「元気が出てくる」ために何が必要かを考える

※常に判断し、タイプに合わせて対応を考えて、変える

Ⅴ 不登校への対応 3 再登校支援 66

不登校のきっかけや継続理由

不登校のきっかけや継続理由は様々であり、その支援も個々の児童生徒によって異なる

無気力型	達成感や充実感を繰り返し味わうことで自己有用感・自己肯定感を高める
遊び・非行型	決まりごとを守らせるき然とした教育的な指導を行う 規則正しい生活リズムを身に付けさせる 学ぶことに興味をもたせる
人間関係型	きっかけとなった人間関係のトラブルを解消する

いずれの場合も、不登校期間における学習の遅れは同時に改善する

（H26.7「不登校に関する実態調査」～平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～より）

不登校の類型は一つの状態を示しているにすぎない ⇨ 生徒の成長過程や、関わりにより状態が変化していくことに留意する

Ⅴ 不登校への対応 3 再登校支援 67

「学校に行きたいけれど行けない」生徒への対応

1 行けない理由を十分に聴く（担任、SC等）
2 いじめ等の学校のトラブルが原因の場合はすぐに対応
3 登校のための環境づくり
4 通常の登校が難しい場合は、「再登校や別機関の利用を目指したプログラム」

V 不登校への対応 3 再登校支援 68

再登校を目指したプログラム

成功体験を積み重ねる

登校時間に合わせて起きる	登校する服装になってみる	友達に会わない時間に・・
起きた後，朝食をとる	学習の準備 玄関まで行く	保健室に・・・・
朝食後，眠らないようにする	途中まで行ってみる	教室に・・・・

保護者と連携して取り組む

V 不登校への対応 3 再登校支援 69

学校への誘いかけ

登校の誘いかけをしてもよい時期と判断したら

誘いかけの目安

学校に誘いたいと思うけど誘っていいかな？
それもとも，もう少し待った方がいいかな？

- 他人の目を気にすることなく，日中元気に外出できる状態
- 生活のリズムが整ってきて，家庭訪問で明るい表情で会ってくれる
- 家庭内で，自ら進んで手伝いなどをしている
- 退屈し始めている。友達や勉強のことなど，学校の話題を自分から話したりする

→ 休息期の後半から回復期にかけての時期

●ADHDについて

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 22

発達障害の理解 【ADHD（注意欠陥多動性障害）】

実行機能が弱い

○取りかかる力（優先順位を付けて取りかかること）
○焦点化する力（目標に集中し、維持すること）
○努力する力（集中し、その維持に力を注ぐこと）
○感情を抑制する力（欲求不満を自己管理すること）
○記憶する力（ワーキングメモリを活用すること）
○行動する力（自己を客観視し、そこから実行に移すこと）

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 23

発達障害の理解 【ADHD（注意欠陥多動性障害）】

1 **不注意** 成人後も残る
注意散漫で話を集中して聞けない　整理整頓が苦手
忘れ物が多い・物をなくす　計画的な処理が困難

2 **多動性** 成長とともに減る（10歳頃に落ち着く傾向）
すぐ席を立つ　落ち着きがない　過度にしゃべる
遊びや余暇活動におとなしく参加することが難しい

3 **衝動性** 依存症になりやすい　成人後も残る
順番が待てない　目新しいことにすぐ飛びつく
人の話に口をはさむ　他人の行動に割り込む

不注意優位型　多動性・衝動性優位型　混合型

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 24

ＡＤＨＤの支援

1 枠組の設定（管理と自由のバランス）

・簡単な約束やルールを設定し、それを守る経験を増やす
・希望つき目標設定と見える評価をする（これが終わったら～できる）

2 環境を整える（刺激を少なくする）

・座席の位置の工夫
・１回の課題の時間を短くする
・掲示物の精選
・作業量の調整

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 25

ＡＤＨＤの支援

3 認める（自己肯定感を高める）

・叱る機会を減らし、褒める、認める（リフレーミング）
・わかった、できたを基盤にした学習、量より質，経過も重視する

4 動と静のメリハリ（自己コントロール能力の向上）

・朝一の運動（落ち着かせるホルモンの分泌）
・読み書き、思考、話合い、発表、操作活動（体験）、五感の活用などの組み合わせ
・人に求め過ぎない（一定の水準、感情をぶつけない）

●ASDについて

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 28

発達障害の理解【ＡＳＤ（自閉症スペクトラム障害）】

３つの行動障害＋感覚・運動異常

1 社会性の障害
・察することが苦手、適切な判断が難しい

2 コミュニケーションの障害
・言葉の理解・使い方が独特

3 想像力の障害
・こだわりが強い

※随伴する症状→感覚過敏・鈍麻や運動の異常

理解されにくく、いじめ・からかいの対象になりやすい

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 29

ＡＳＤの支援（社会性）

1 深呼吸やカウントアップ
・肩の力が抜けるような感じ
・「１・２・３・・・」ゆっくり数える
別室でクールダウン、水を飲む、助けを求める

2 自分を受け入れる言葉
・「ドンマイ」　「大丈夫」　「しょうがない」
※教師、周囲の生徒も同様に

完璧にこだわる

3 可視化する（文字やイラスト）
・12:45～　文化祭実行委員会（会議室）

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 30

ＡＳＤの支援（コミュニケーション）

1　明確な言葉で（絵になる言葉）
「もうちょっと」→「１０時まで」
「きれいに片付けなさい」
→「○○と▲▲を片付けよう」
（段取りや処理過程への対応）

2　文字や写真、絵、ＩＣＴを活用する
・見て確認できる情報は理解しやすい
（道路標識、ピクトグラムと同様）

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 31

ＡＳＤの支援（コミュニケーション）

3　否定的な言葉が飛び交っていないか
・ほんの冗談・からかい→立ち上がれない傷
・部活の成績が伸びないことを責めていないか

例）不登校生徒のエピソード

中学校時代の学力中の上　友達関係のトラブルはなし　サッカー部　おとなしい性格　友達とはあまり話さない　まじめ
部員から「臭い」と言われ、自分の体臭が気になる

・「臭い」～ちょっとしたいじり、からかいがないか
・精一杯、息苦しい、責め合う雰囲気になっていないか

ネガティブな周囲の関わりに強く反応

Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 32

ＡＳＤの支援（コミュニケーション）

4　指示は一つずつ
・行ってほしいことを一つだけ指示し、それが終わったら次の指示を

5　指示や説明をする前に注意を促す　前振り
・名前を呼び、注意を促す
「これから○○の話をします」
「これから大事な話を二つします」
・指し棒や話す内容がイメージできる具体物等の活用（指している部分を明確化）

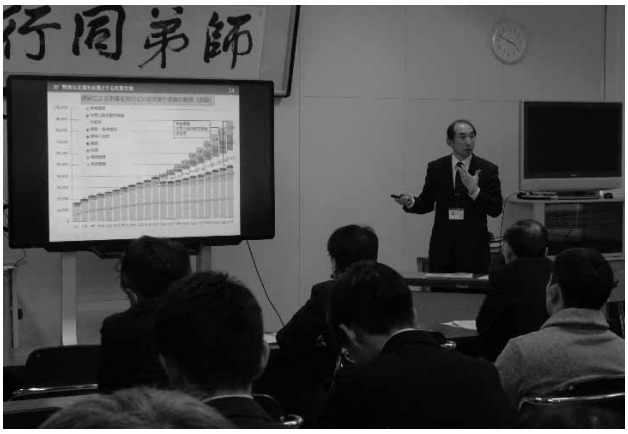
Ⅳ 特別な支援を必要とする児童生徒 33

ＡＳＤの支援（過敏・鈍麻,運動機能）

6　感覚過敏・鈍麻
・光、におい、味、触感、音（高低、音量、音質、特定の声、混在）⇒わがままではない、軽減を本人や保護者と相談し、自然な配慮を
・大きな怪我を痛がらない

7　運動機能
・協調運動が苦手（バスケット、縄跳び、踊り等）
⇒からかいの対象にならないような手立てを工夫
・走り方がぎこちない
⇒上肢、下肢に分けて練習し、体の動きを確認

●講演風景



秋田商業高等学校第２回校内研修会を受けての質問に対する回答

秋田県総合教育センター
支　援　班　　村　松

＜質問１＞

障害があった場合のクラスや学年での共有の仕方は，どのようなものがあるか。

①　教員間

保護者からの聞き取り，診断書（無い場合が多い），中学校からの個別の指導計画やその他の引き継ぎ資料がある場合は，それらを参考にして，学級担任等は保護者や本人との面談を定期的に行い，指導や支援の方法について話し合って，合意につなげます。学級担任等は，学年主任や特別支援教育コーディネーターの協力を得ながら，校内委員会等を中心に，適切な対応方法の検討と教員間の共通理解に努めます。また，生徒指導主事とも情報を共有し，必要に応じて，高等学校特別支援隊（事務局：栗田支援学校）の協力を仰ぎます。個別の指導計画を作成するなどして，学級担任，教科担任，部活動顧問などと共有し，指導・支援の充実に努めます。

②　生徒間

障害があることを本人が理解して受け止めている場合と，そうでない場合があります。また，保護者が周囲の生徒に対し，障害を理解してもらいたいとして，カミングアウトを希望する場合もありますが，実際にはほとんどありません。

そこで，日常の中で教員がすぐにできることとして，本人を含む生徒全員に対し，誰しも得意不得意があり，それが例えば人間関係でも同様であるといったことを十分に浸透させておく必要があります。つまり，人間は多様であり，考え方や行動の仕方なども様々であることから，こうした多様性を尊重する必要があるということを自らが示す必要があります。このことが大前提となります。

しかし，集団生活においては，許されない行為もありますので，周囲が常に我慢しなくてはならない状況は，決してよいこととは言えません。研修の資料にもありますが，周囲の生徒に対しても「建設的対話」「リフレーミング」「Ｉメッセージ」「アサーショントレーニング（自分も相手も大切にした伝え方）」といった手法を活用し，我慢ではなく，相互のスムーズで，建設的な関わりを促していく取組を促します。

周囲との関わりに困難を抱えた生徒は少なくありません。「障害」の周知を図るよりも，苦手さ，困難さと置き換えて受け止め，互いに支え合う集団づくりを進めていくことが大切です。対象生徒や保護者とは，受容的共感を基盤にして，十分な相談を行い，周囲のサポートを受け止められる気持ちや，助けてほしい，手伝ってほしいと自ら働きかけられるように，心の準備とスキルを高めていくことが大切です。教員には，こうしたことを支える力量が求められています。また，同じ出身校の生徒の中には，上手に対応していることも多く見受けられます。そうした生徒の行いを参考にして広げ，みんなが居心地がよいと実感できる集団づくりを目指したいものです。

＜質問２＞

再登校ができた例，できなかった例，実際にあった生徒の例をいくつか紹介してほしい。

① 総合教育センターウエブサイト 「不登校への対応 ノープロブレム 大丈夫」

センターウエブサイト上にある資料（保護者用，教師用）にも，それぞれ事例を掲載してありますので，参考にしてください。

センターウエブサイト＞各班＞児童生徒支援担当＞不登校への対応＞

② その他の事例

（再登校）

・ １年生男子，吹奏楽部所属。発達障害の診断はないが，専門医より特定の障害の傾向ややありとの話があった。小・中学校時代に不登校経験あり。部活動は楽しいと言っていた。夏休み以降の長期欠席。当初は，学校が欠席理由で特定できなかったが，保護者が本人から課題がたまっていることを聞き出し，担任に相談した。学級担任等は，入学後課題未提出であることについて把握しており，本人には教科担任，学級担任それぞれから提出するよう再三指導があった。

課題提出への負担が主な要因と特定。未提出課題への対応方法と本人への伝え方等について，教育専門監から助言。学年部，教科担任が話し合い，保護者に対応策を提示。未提出課題の負担軽減（特定部分のみ提出）を教科担任からの提案として，学級担任が本人に伝え，提案に応じた。放課後保護者と課題を持参し，再登校。

（再登校）

・ ２年生女子，成績は上位。小・中学校時代に不登校経験あり。仲のよい女子生徒と常に行動。夏休み以降に，学級が騒がしいのでいたくないとの訴えがあり，欠席日数が増え，長欠。仲のよかった生徒とも疎遠になり，自殺願望も出てきた。

学校職員との関わりを拒む。養護教諭を中心に，LINE 等で連絡するも未読。世間話を書き込んだ手紙を母親を通して渡してもらい，母親から反応を聞き，徐々，に質問を加え，やり取りへと発展させた。スクールカウンセラーからも助言を得て，学校全体で話し合い，対応の充実に努めた。１年以上の説得の後，再登校につなげた。再登校時は，スクールカウンセラーのカウンセリングや学級担任との丁寧な相談に努め，本人の意思を尊重し，それに応じた提案に心掛けた。

（進路変更を検討）

・ １年生女子，成績上位で，もの静かな性格。中学校時代から頼りにしていた生徒と同じクラス。頼りにしていた女子生徒が，部活の他の生徒と昼食を取るようになり，誘われ一緒に食事をするが，会話に打ち解けられず，居場所がないと感じるようになった。徐々に睡眠が取れなくなり，起立性調節障害と診断。登校できない日が続いた。その後，精神科を受診。自閉症スペクトラム障害を起因とする統合失調症と診断，入院措置。長期入院となる。

＜質問３＞

クラスの生徒の思惑を考慮し，どう働きかけて受け入れ体制を整えるか，具体例を教えてもらいたい。

質問１，２への回答を参考にしてください。質問２の事例には，明記していませんが，実際には，クラスの生徒や部活動の先輩などが，さりげなく支えてくれたことなども，再登校の支援になったりもしています。

＜質問４＞

ADHD，ASD 等を抱える生徒は，自らの障害について認識した方がよいのか。それは，どんな環境，どんなタイミングがよいのか。

診断がある場合は，自らの診断名を知っておくことが望ましいと思います。ただし，それは，自らの障害がどのような状態なのかを知ることを目的とするものです。それによって，自分の得意不得意を受け止め，自分の取扱説明書をイメージして，他者にお願いしたり，理解してもらったりというやり取りができるようになるためです。時期的には，高校生くらいまでにと言われております。主治医と保護者が相談の上，主治医から説明があるのが一般的です。

診断に至らない，または受診の機会を逃してきた場合は，得意不得意，苦手さ，困難さというキーワードで，面談やカウンセリング等を通して認識を高め，どのように向き合っていくかを具体的な方法を講じて，対応力や代替手段を身に付けさせる必要があります。

障害が強く疑われる場合は，高等学校特別支援隊，市教育委員会指導主事，特別支援教育の教育専門監等に相談し，保護者相談の進め方等の助言を受けることも方法の一つです。

＜質問５＞

高校生対象の ADHD の簡易検査はあるか。

ありません。本県では，「SEN 児童生徒チェックリスト」の＜チェックリストⅡ＞に「不注意」「多動性・衝動性」のチェック項目を紹介しております。教員ができるチェックリストですが，診断とは一致しないことがあることに留意しておく必要があります。（総合教育センター特別支援担当，特別支援教育課で検索できます）

高校生の年齢になると，従来の ADHD 傾向の状態から，二次障害に発展することが珍しくありません。こうしたチェックリストの判定結果に左右されすぎず，あくまで参考として，本人の教育的ニーズの把握と適切な指導・支援に努めることを目指しましょう。

勝平中学校との学校間連携①

小・中・高・特別支援学校連携協議会

研修部

◎ねらい

勝平小学校・勝平中学校・秋田商業高校・秋田きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで、長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、自動・生徒の学習方法の確立や学習内容の定借、生活習慣の形成に努める。

１　期日　令和元年5月29日（水）

２　場所　秋田市立勝平中学校

３　日程

⑴　授業参観　１３：３５～１４：２５

⑵　連携協議会

①　全体会

１）勝平中学校長あいさつ

２）今年度の学校間連携について

②　分科会（各部会・プロジェクトの協議）

③　全体会

１）各部会からの報告（報告：各部会記録者）

２）勝平小学校長のあいさつ

４　各部会で話し合われたこと

⑴　小中連携部会

①　子ども育成・学校間交流プロジェクト

年２回の学習サポート状況報告。中学校一日生活体験で実施する授業を拡大する。

②　教育相談プロジェクト

不登校生との現状確認や、スクールカウンセラーによる研修会を実施する。

③　中１情報交換会

小学６年次より、授業姿勢が格段に向上している。今年度も中１についての情報交換を実施する。

④　学力向上プロジェクト

小・中で授業スキルの交換。学習目標を注目させる掲示の工夫などを実施する。

⑵　中・高連絡部会

１年間の活動計画、勝平中学校２年生による商業科目体験授業

昨年の商業科目体験授業の様子を秋田商業高校コーナーを設けて掲示し、商業高校の情報を掲示。３年生の教室には『工業高校ニュース』が掲示されていた。

『商業高校ニュース』を通して、商業を学ぶ生徒の活躍や学習内容への理解を深めてほしい。

⑶　中・特別支援学校連携部会

かがやきの丘祭りや合唱コンクールなどを通して、生徒同士の交流を深める。

勝平中学校との学校間連携②

勝平中学校授業参観及び各教科研究協議会

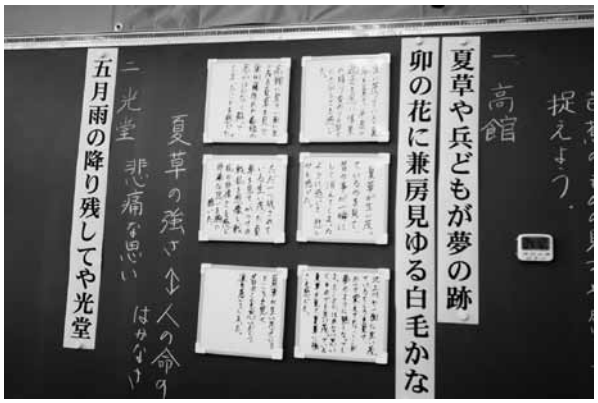
研 修 部

1　と　き　　令和元年10月31日（木）
2　ところ　　秋田市立勝平中学校
3　日　程　　特定授業参観　　11：05～11：55
　　教科研究協議会　　13：45～15：05
4　参加者　　本校からは、特定授業参観に４名（保健体育・英語・社会・国語）、
　　教科研究協議会に３名（英語・社会・国語）参加

～参加した先生方から～

授業参観した感想

・バレーボールの授業を参観した。授業の進め方がスムーズに行われており、場面毎の狙いがわかりやすかった。パス・レシーブ、サーブ、簡易ゲーム、それぞれにペア、グループでの話し合いの場面が持たれ、課題を見付けさせ、その克服に向けた技能向上の意識を持たせていた。生徒同士で教え合う場面が多く見られた。（保健体育）
・ＡＬＴとの授業で、いつもの授業ではないものであったようだが、中学生の能力を見ることができて良かった。（英語）
・資料を比較・読み解きをさせながら、深い学びになっていた。自分の考えを根拠を明確にして答えさせる学習を繰り返しているそうで、参考になった。（社会）
・松尾芭蕉『奥の細道』の授業を見せていただいた。国語の４技能「読む・書く・聞く・話す」が駆使されており、言語活動の充実を意識した、とても参考になる授業だった。（国語）



教科研究協議会の様子

【英語科】

・我々の想像以上に、接続詞を使った英文を生徒が作ることができていたので、この授業よりも前の指導・学習についても話し合った。中学校の指導主事とは初めてお会いしたので、中学校の指導主事の観点を学ぶことができた。

【社会科】

・生徒に深い思考を促すための手立て・工夫

・グループ・ペア学習の中でも「個の学び」「個の学力」を保障した授業にならなければいけないと、おろそかになりがちな点を気づかされた。

【国語科】

・今年度の国語科の研究主題は、「自分の考えや思いを伝え合い、学び合うことができる生徒の育成」であるが、「学び合う」とは具体的にどうすることなのか、参加者それぞれの考えや実践例等を話し合った。指導助言者の「全員がゴール（目標を達成）しなければ意味がないのではないか」という言葉に考えさせられた。

勝平中学校との学校間連携③

勝平中学校２年生の商業科目授業体験

商業科　櫻庭　　咲子
柏谷　亜紀子

１．はじめに

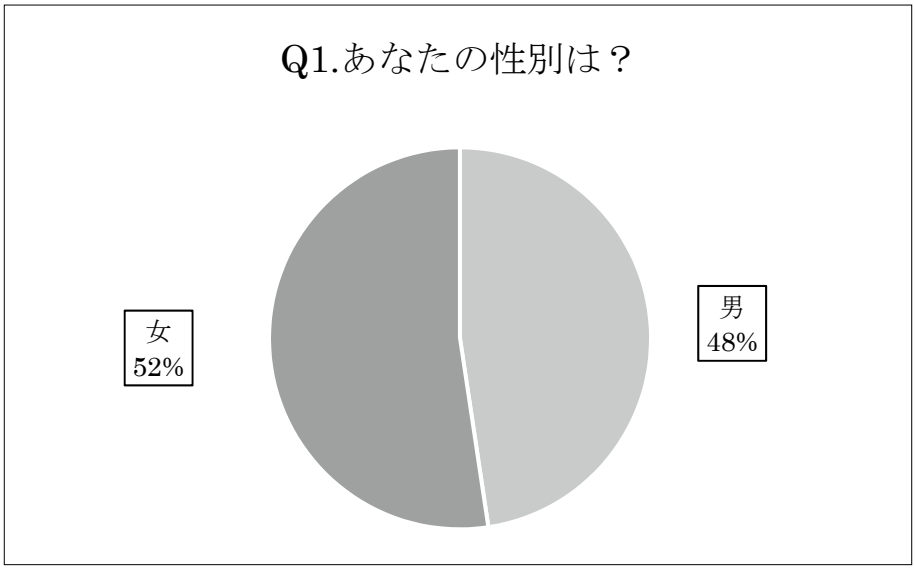
小・中・高・特別支援学校連携協議会においては、勝平小・中学校、秋田商業高校、きらり支援学校が互いに連携し、多様な教育活動や課題解決に取り組むことで長期間を見通した計画的・継続的な支援のあり方を模索し、児童・生徒の学習方法の確立や学習内容の定着に努めるとされている。そのような状況の中で、中高交流授業の一環として勝平中学校の２年生が秋田商業高校を訪問し、授業を体験することで商業科目及び商業高校についての理解を深めている。

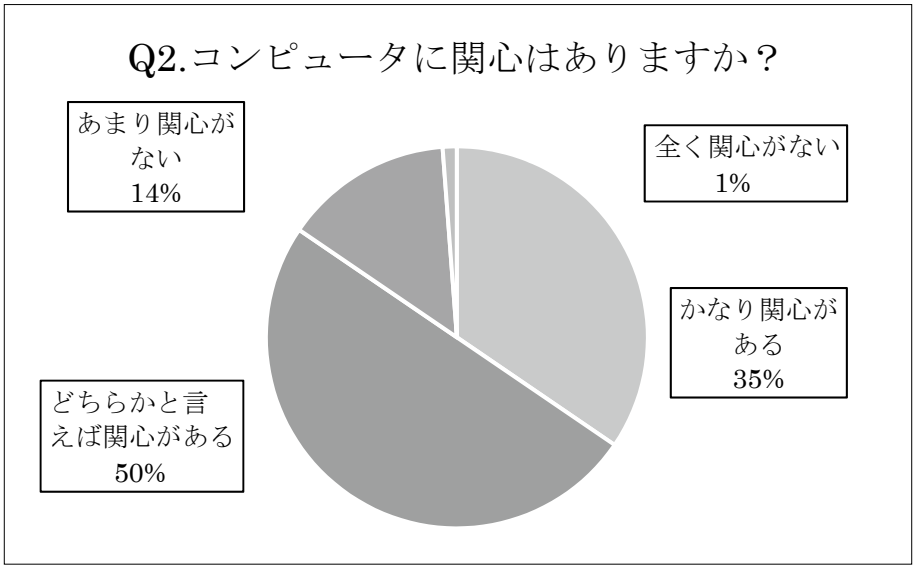
２．実施内容

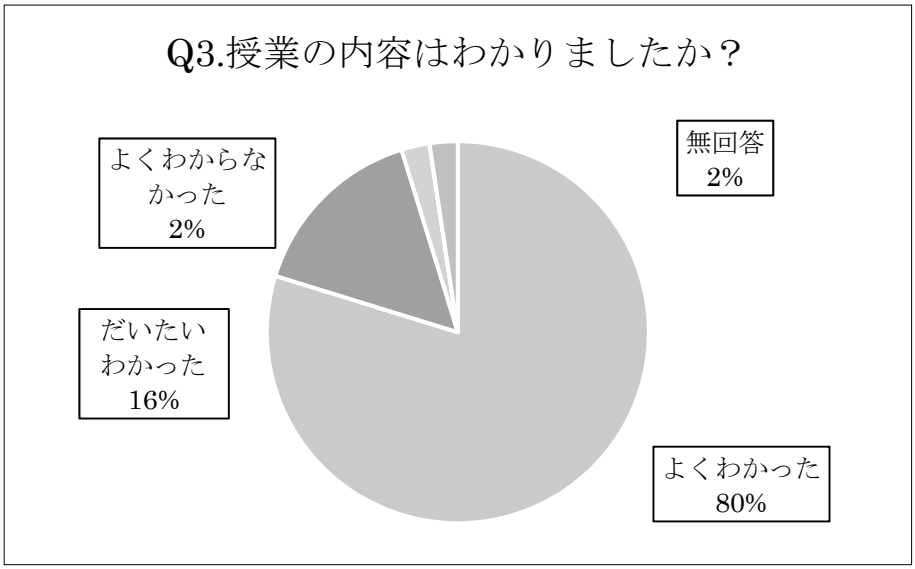
中高連携授業は令和２年２月１３日（木）に行われ、本校の３年生が「電子商取引」で学ぶＨＴＭＬ言語を用いてＷｅｂページの作成を行った。導入部分では、商業科の説明や各コースの説明および電子商取引についての説明を行った。その後、Ｗｅｂ作成に入り、中学生はメモ帳を使いＨＴＭＬ言語を入力した。完成したページの背景色や文字色を変更しプレビューで確認する実習では、生徒は簡単に好きな色に変更できることに驚いていた。本校教員だけでなく、勝平中出身の本校情報コース３年生も授業のアシスタントとして後輩たちへの指導を経験することができ、とても充実した時間となった。

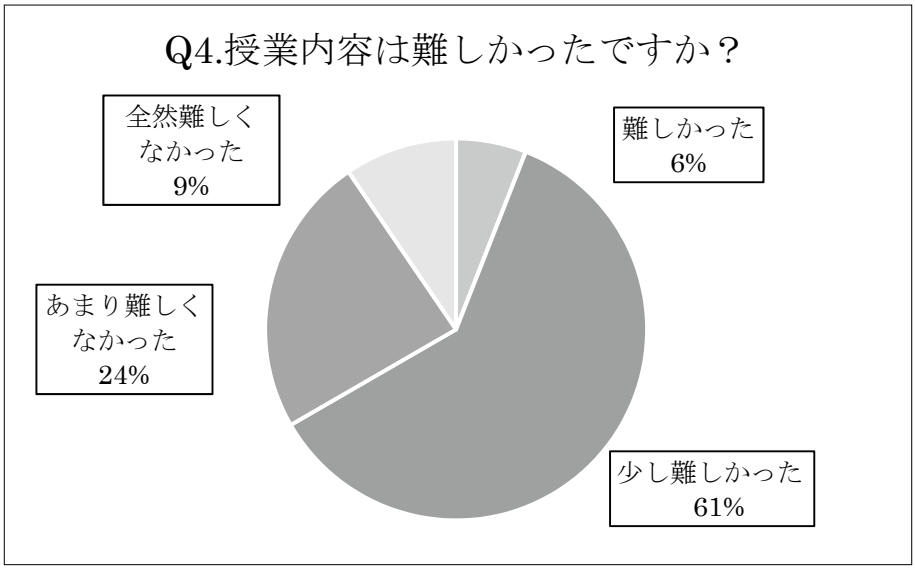
時　間	内　　容	備 考
～ 9：50	秋田商業高校到着、生徒昇降口で内履きに履き替えて総合情報処理室へ	１校時
10：00 ～10：10	総合情報処理室（定員８８）　８４名（男子４０、女子４４） 開会行事（進行：柏谷） １　挨拶（松岡教頭） ２　日程説明 ※アンケート用紙配布	２校時
10：20 ～11：30	授業体験 担当：米澤、石﨑、菅原、佐藤大 ※勝平中卒業生（３年Ｆ組２名）	３校時
11：30 ～11：40	閉会行事（進行：柏谷） １　挨拶（松岡教頭） ２　勝平中生徒挨拶 ※アンケート回収	
11：50～	勝平中学校へ移動	

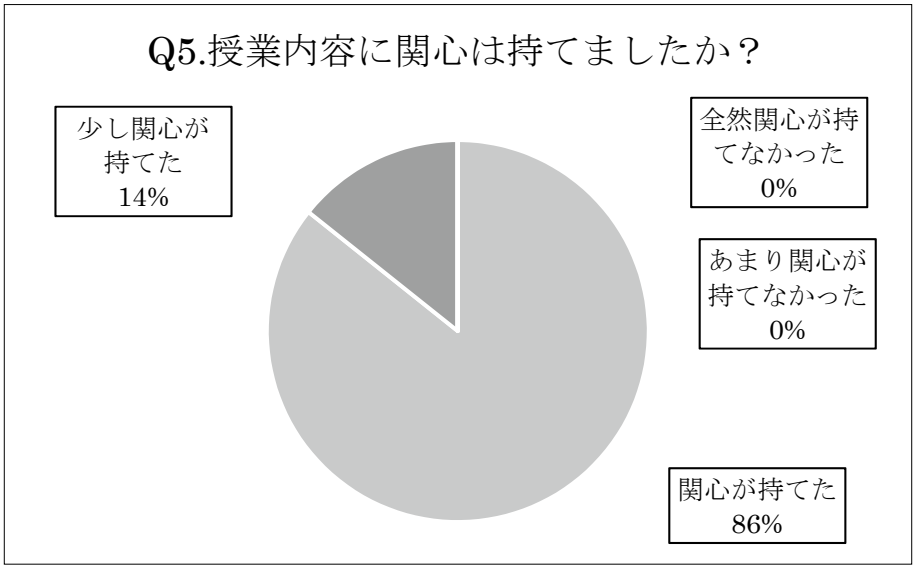
３．アンケート集計結果（対象者　勝平中学校２年生　84 名：男子 40 名　女子 44 名）

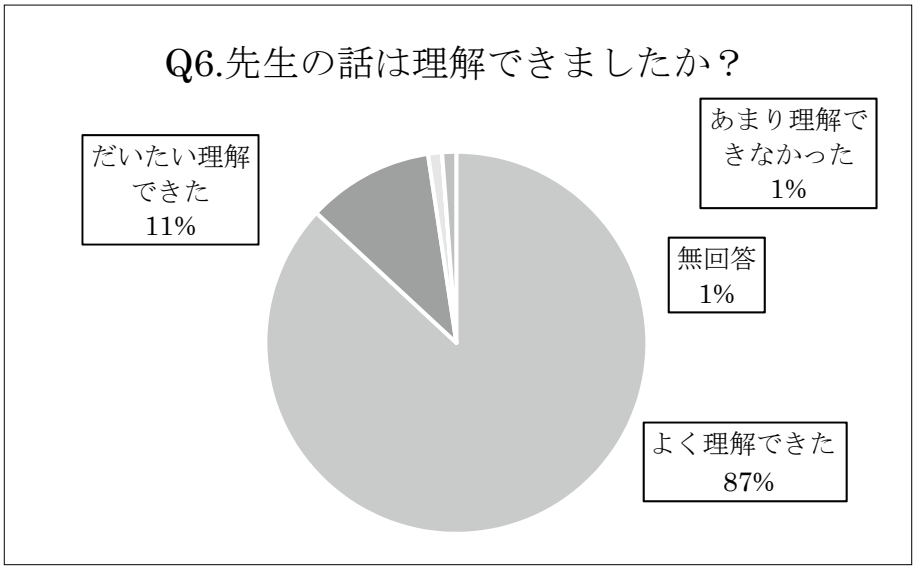


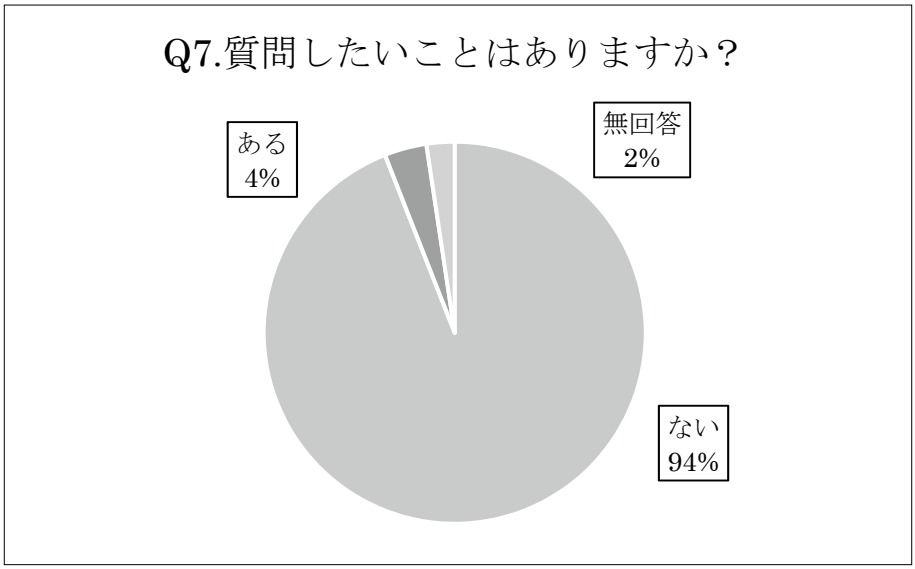





Q4.授業内容は難しかったですか？
全然難しくなかった 9%
難しかった 6%
あまり難しくなかった 24%
少し難しかった 61%


Q5.授業内容に関心は持てましたか？
少し関心が持てた 14%
全然関心が持てなかった 0%
あまり関心が持てなかった 0%
関心が持てた 86%


Q6.先生の話は理解できましたか？
だいたい理解できた 11%
あまり理解できなかった 1%
無回答 1%
よく理解できた 87%



４．中学生からの質問　※回答は後日、アンケート結果とともに勝平中学校へ送りました。

Ｑ１　パソコンの横のビー玉はなんですか？（２）

Ａ１　書見台です。プリントをはさんで立てられるようになっています。プリント類を見ながら入力するときに利用しています。

Ｑ２　商業高校を卒業した方々は具体的にどのような職業に就くことが多いですか？

Ａ２　今年度最も多かったのは事務職でした。企業の経理などに携わる仕事です。

５．中学生の感想

・Webページソースを入力の仕方で保存の仕方や色の分け方を知ることができ、これから使うことがあるので、使っていきたいです。

・授業がとてもわかりやすく、進行もゆっくりしてくれていてとても良かったです。

・元々コンピュータに興味があったので、この授業に関心を持って参加することができました。技術の経験を生かしてできたのでよかったです。今日のこの授業の機会を大切にしてこれから高校選びに活かしていきたいと思います。ありがとうございました！

・いろいろな文字を入力するのが楽しかったです。少し難しかったけれど、いい経験になりました。この授業を高校などでも生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

・今回の体験授業では、ＰＣの基本となる操作の仕方や簡単なWebページの作り方を教わりましたが、教わる側もとてもわかりやすい説明の仕方で、内容をすぐ理解することができましたし、何より楽しんで授業を受けることができました。

・分からないところを最後までしっかり見てくれたのでｗｅｂページの作成ができました。

・ホームページの難しさがわかった。メモ帳に長い文を打つのは大変だったけれど、メモ帳の誤りがＷＥＢページに影響することや色を変えて自分なりに作れることが面白いと思いました。

・普段コンピュータを使うとすぐ変なところにとんでしまい、あまり好きではなかったのですが、今日のウェブページを作るのはとても楽しかったです。

・パソコンを使ってウェブページを作ってみて、目が疲れてしまったり、間違えてしまったりしたけど、丁寧に作成することができたので、よかったです。

・ＷＥＢページを作成すると聞いたときは、最後までできるか不安な思いもありましたが、商業科目のことを知りながら楽しく取り組めました。

・ＷＥＢページ作成のことが分かって楽しかったです。たくさん文字を打ったけど、うまくできたと

思うので良かったです。
・今日の授業では、全体的に少し難しかったけど、自分なりにできて良かったです。文字を打つところはできましたが、色を変えたりして分からないところは先生たちもわかりやすく教えてくれたので良かったです。
・色を変えるところが少し難しかったけど、教えてもらったらできるようになって楽しかったです。中学校でもコンピュータの授業はあるけど、ここまで専門的なことはやったことはないので貴重な体験ができたと思います。
・インターネットを使う機会があまりなく、分からないことだらけだったけれど、ソースを打ち込むだけでＷｅｂページが作成できることにとても驚きました。どの仕事をしていく中でもとても大切な技能だと思うので、今日習ったことを生かして自分でもやってみたいと思います。
・正確に打つのが難しかったけど、説明が分かりやすく、しっかりとＷｅｂページをつくることができたので、楽しかったです。商業とはどのようなことを習うのかも分かったので、良かったです。
・自分でＷｅｂページをつくるのは初めてだったので、ちゃんとできるか心配だったけど、最終的にうまくできたのでよかったし、コンピュータにもっと関心をもつことができました。楽しかったです！
・Ｗｅｂページの作り方がよく分かりました。今までやったことのない作業だったので時間がかかってしまったけど、よく理解することができました。
・とってもわかりやすく、楽しく授業することができました。また、わからなかったときに優しく教えてくれたのでより楽しかったです。
・コンピュータについて、あまり興味がなくて、あんまりやったこともなかったけど、今日の体験でインターネットは難しいと感じました。でも、とても楽しく終えることができ、よかったです。とてもいい経験になりました。

授業公開週間実施報告

研修部

Ⅰ　趣　旨　お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。

Ⅱ　テーマ　組織的・継続的に取り組む授業改善の推進
～『問い』を発する思考力を育むために～

Ⅲ　期　間　１回目　６月３日(月)～21日(金)
２回目　11月11日(月)～29日(金)　※11／11～15簿記検定対策特別時間割

Ⅳ　授業するに当たっての重点的取り組み事項

①【本時の目標】を提示する。
②生徒の「なぜ」を引き出す「発問」を工夫する。
③生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。
（グループ活動・教え合い・調べ学習・考察・発表など）
④【本時の目標】に対する「振り返り」をする。

Ⅴ　実施方法

⑴　期間中、各教科代表者１名以上（今年度研修対象者は除く）が、アピール授業を行う。なお、商業科に関しては分野ごとの代表者１名以上がアピール授業を行う。今年度研修対象者は別枠でアピール授業を行う。

その際、最低１回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者に配付する。

アピール授業は、時間割変更黒板の時間割に赤の蛍光ペンでマークをするとともに、「アピール授業一覧」に授業内容等を記入する。

⑵　期間中、全職員が自教科１時間以上、他教科１時間以上、計２時間以上（家庭科・芸術科は他教科２時間以上）の授業を参観する。

⑶　フリー参観形式。１時間内に複数の授業を参観してもよい。ただし、授業時間の半分（25分）は参観する。参観する際のポイントは『参観シート』に記載する。

⑷　参観時には『参観シート』（時間割変更黒板の下に準備）を持参し（１授業につき１枚)、記入して『参観シート提出袋』（教頭席前）に提出する。できるだけ当日提出する。提出状況で参観者を掌握する。研修部でマークシートを読み取った後、授業者へ『参観シート』を渡す。

⑸　授業変更等がある場合

①期間中の出張・年次は、できるだけ授業変更する。
②期間中の時間割に出張・年次を反映する都合上、事前に各自でデスクネッツのスケジュールに動静を入力する。
③直前の変更等は、時間割変更黒板に掲示する授業公開週間用時間割に黒で変更後のクラス・実施場所などを書き込む。
④やむを得ず自習にする場合は、時間割に黒で「自習」と書き込む。

Ⅵ　実施状況ーアンケート結果から

「第１回 授業公開週間」アンケート等集計結果（R1.7.23）　　**研修部**

回答数　46人/ 46人（100%）　　授業参観者数　46人/46人（100%）
自教科　45人/46人（ 98%）
他教科　42人/46人（ 91%）

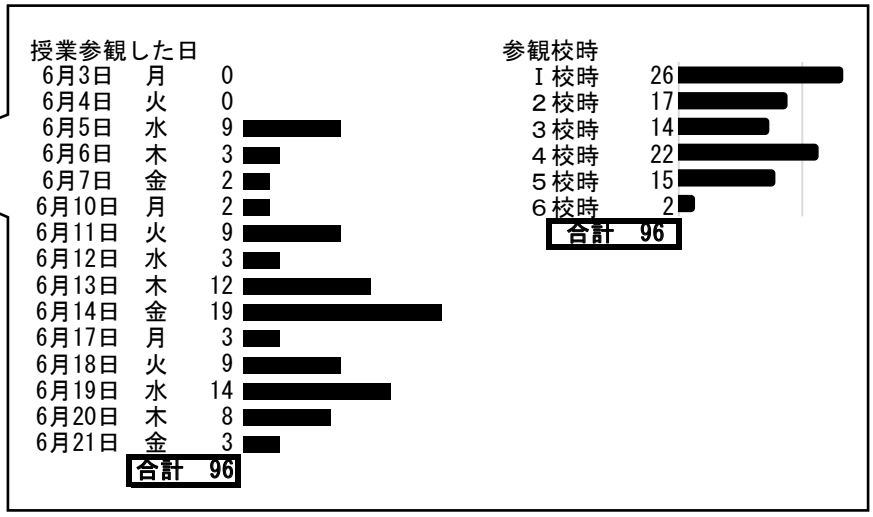
担当教科

国　語	5	英　語	6	理　科	2	保　体	6
数　学	3	地歴公民	3	商　業	19	家　庭	1
						芸　術	1

『参観シート』集計結果
（参観後すぐに提出）

参観授業時数

国　語	18
数　学	0
英　語	16
地歴公民	11
理　科	6
商　業	30
保　体	6
家　庭	2
芸　術	7
合計	96



『事後アンケート』集計結果

参観授業内訳

参加時数	自教科	他教科	合計
５以上	0	0	55
4	0	1	
3	2	0	
2	4	4	
1	15	14	
0	5	3	

（反省点１）
『事後アンケート』を書いていただいた時には参観した授業全てを覚えていないため『参観シート』と、合計が合わない。

（反省点２）
１人で複数の授業に参観していた先生もいたが、参加授業が”０”の先生もいた。
（理由）
・自分以外の授業を受け持ったため、時間に余裕がなかった。
・時間がなかった。
・タイミングが合わなかった。

質問内容

◎芸術科・家庭科以外の先生への質問

⑴組織として取り組むことができたか

教科全体で取り組んだ	21
同一科目担当者とともに取り組んだ	15
未回答	2
取り組んでいない	8

＊「取り組んでいない理由」

・自分以外の授業が増えたため、時間に余裕がなかった。
・同一教科内での話し合いの機会を設けたため
・全員が揃うことがなかったため
・授業者の先生が外部研修の内容を取り入れた授業であったため

(2)教科内で科会を開いたか

はい	5
未回答	1
いいえ	3

＊「開かなかった理由」（教科主任回答）

・授業内容が異なるため（科目の特性）
・大会などの出張
・同一科目を持っている担当内で話し合いの機会を設けたため

◎実施時期及び期間に関して

(1)実施時期について

今のままで良い	45	
変えた方がいい	1	・年に一回集中して

(2)実施期間について

今のままで良い	40	
もっと短い方がいい	5	・７日くらい（２人） 14日くらい（１人）
もっと長い方がいい	1	・１ヶ月くらい。大会等があるので。

◎自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容

・教材に対する深い洞察
・ねらいを明確に絞って、生徒を思考させる授業
・ねらいをひとつにしぼり、大胆に展開する授業をためしてみたいです。
・単元の内容によってはグループ学習を取り入れてみたい。
・ニュース等の映像を取り入れた授業
・自分の考えを表現する場面をもっと増やしたいと思いました。
・グループ学習で補い合う。（最近してないので）
・近野先生の山月記のラストシーンを図で描かせてイメージ化する表現を考察させる学習
・実験
・書画カメラを使ったわかりやすい授業
・PPの活用、グループワーク
・全て参考できるものであった。
・自由な発想を求める授業
・英語科の先生の授業で、タイムリーなニュースを取り上げてディベートをさせていました。パワーポイントの活用方法と、生徒の興味を引く話題作りをまねたいと思います。
・話し合いやグループワークなど生徒が活動する場面を取り入れたい。
・グループワーク
・英語の授業でパワーポイント等を上手く活用していた。
・パワーポイント
・文から得られるイメージを図で表現させること
・ディベートをいつかさせてみたいです。
・絵を描いて考える。

◎自分の授業で改善したいこと

・教育機器について的確に使用できる能力
・話し合い、教え合い等でグループワークは頻繁に取り入れ、生徒には好評だが、クラスによって、あるいはグループの構成メンバーによって、どしてもうるさくなってしまう。より効果的なグループの作り方、活動のさせ方をいつも考えているがなかなか改善できないでいる。
・細かいところに刺さりすぎてローラー式の授業になりがちなところを改善したいです。
・生徒に発言・発表させる場面をもっと増やしたい。
・自分の意見を英語で表現する活動を入れるようにしたい。
・プロジェクターを使い教材提示を工夫したい。
・短期間で効果を期待せずに長期を意識したディベートに取り組むべきだと思った。
・図や写真を効果的に取り入れ、視覚的に分かり易い説明（地理の小林先生、国語の近野先生）
・生徒から問いを発する内容にまだなっていない。
・生徒への発問回数を増やしていきたい。
・生徒の興味を引き出せるような発問をすること
・タイムスケジュールの調整、事前準備
・生徒とのコミュニケーション
・振り返りを確実に行うこと
・ゆっくり進みすぎて考査前に時間が足りないと感じるところがあるため、生徒が理解しやすいように授業の進め方を工夫するとともに、テンポ良く進めなければ、と思っています。
・生徒が説明を聞く時間、考える時間など授業内でメリハリをつけて進められるよう改善したい。
・発問の仕方、生徒の考える力を伸ばす工夫
・パワーポイントの活用をしていきたい。
・パワーポイントの利用
・生徒をもっと効率よく動かしていきたい。
・指導主事にあれこれ言われなくて済む授業
・ワンパターンからの脱却

「第２回 授業公開週間」アンケート等集計結果（R1.11.29）

回答数　　授業参観者数　48人/49人（ 98%）
『参観シート』　48人/49人（ 98%）　　自教科　39人/49人（ 80%）
『事後アンケート』44人/49人（ 88%）　　他教科　41人/49人（ 84%）

担当教科

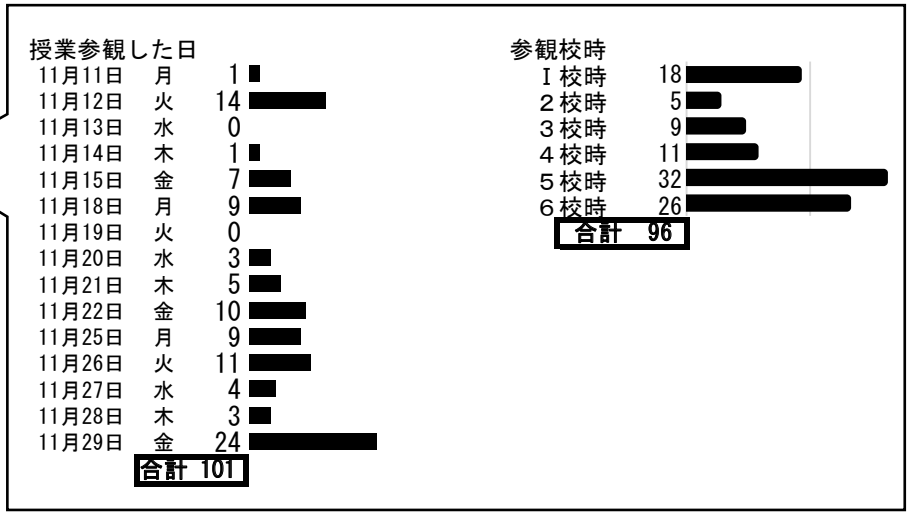
国　語	5	英　語	6	理　科	2	保　体	6
数　学	4	地歴公民	3	商　業	21	家　庭	1
						芸　術	1

『参観シート』集計結果

（参観後すぐに提出）

参観授業時数

国　語	8
数　学	17
英　語	15
地歴公民	5
理　科	5
商　業	32
保　体	11
家　庭	8
芸　術	0
合計	101



『事後アンケート』集計結果

参観授業内訳

参加時数	自教科	他教科	合計
５以上	0	1	96以上
4	0	0	
3	0	1	
2	4	6	
1	35	33	
0	4	4	8

・自分の授業、分掌の仕事、大切な大会に向けての戦術作成など、やらなくてはいけない仕事が多すぎて空き時間の余裕なし。
・空き時間がほとんどなく、今回は時間を作ることができなかった。

質問内容

◎芸術科・家庭科以外の先生への質問

⑴組織として取り組むことができたか

教科全体で取り組んだ	18
同一科目担当者とともに取り組んだ	10
未回答	11
取り組んでいない	5

＊「取り組んでいない理由」

・受け持ちが異なり、特性が異なるため
・教科内での打ち合わせができなかったため

⑵教科内で科会を開いたか

はい	5
未回答	0
いいえ	8

教科主任以外の先生も回答

・意見を書き込むシートを回覧したため
・同一教科内で行うため
・教科担当者で集まったため
・時間がとれなかった

◎実施時期及び期間に関して

⑴実施時期について

今のままで良い	38
変えた方がいい	4

・年に１度、テスト前以外、10月

⑵実施期間について

今のままで良い	38	
もっと短い方がいい	1	・14日くらい（１人）
もっと長い方がいい	2	・１ヶ月くらい

◎自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容

・生徒の発表を取り組みの成果を発表する場を設けたい。
・ICT、ホワイトボードの活用
・画像・映像を使った授業
・パワーポイントを使った授業
・生徒同士で教え合わせること
・基本的スキル。話術の大切さを改めて気づかされた。
・生徒の個性を発揮させる工夫が大切だと思った。
・生徒に解答までの過程を説明する。
・生徒がより良い作品を作るために自ら考え行動する授業
・導入時に前回の授業で使用した復習プリントを使用する。
・生徒が発表する場
・生徒の指名に「くじ」を使用
・コミュニケーション活動としての英語の授業
・生徒の作品を写真に撮って張り出す。

◎自分の授業で改善したいこと

・こちらの望む方向へ誘導しすぎるかな、と時々思う。
・英語だけで進める授業展開
・授業内容の提示の仕方
・板書を見やすく丁寧にしたい。
・生徒の発言を大切にしたい。
・生徒からの発言を引き出すよう、発問を工夫したい。
・ICTを上手く活用したい。
・グループワークを活用したい。
・授業の振り返り
・生徒の発言、活動を増やす。
・生徒が自ら学ぶ授業の仕組み作り、設計
・グループワークなど、生徒が話し合う時間を設定するなど、生徒が理解を深める授業
・活動に合ったグループ作りの工夫
・教材研究を深め、授業方法を工夫して、生徒主体の動きある授業作りをしていきたい。
・生徒からの積極的な発言は、グループ内での意見交換では良く見られるが、深く掘り下げて問題を考えるポイントをもっと増やしたい。（時間的な制限があり難しいが。）
・ペアワーク、グループワークをもう少し増やし、生徒相互間で教え合う活動を増やしたい。
・生徒自身に発想・意見を表現させること

Ⅶ　おわりに―

授業公開週間実施８年目。毎年のことだが、参観率100％を目標とした。そのため、特に今年はアピール授業の見所を紹介するなどして、関心を持ってもらい、参観意欲の向上に結びつくよう心がけた。結果、1回目は100％を達成することができた。が、２回目は達成することができなかった。期間を長くとっても、分掌の仕事や部活動、教材研究等で授業を見る暇がない先生もいる。人によって多忙な時期と重なったりするので、年間を通しての参観率と捉えると100％となる。

第２回授業公開週間　授業紹介

11月11日（月）～29日（金）実施

○国語科

11月26日（火）５校時　３Ｄ現代文「こころ」

戸澤恵先生

【授業の様子】

【参観者の感想】

・先生の読み取りと説明がとても丁寧で良かったと思います。あの場面は「何も知らない～」があるのでそちらに時間を割いても良かったかなと思いました。ねらいはとても良かったと思います。アプローチの仕方を変えるとそこで１時間かかるかもしれないポイントだと思いました。

・範読中心の授業で大変だったと思いますが、生徒の理解度に合わせて解説を加えたり読むスピードを加減したりといった心遣いが表れていました。「『私』の良心の揺れを読み取る」というテーマ設定も良かったと思います。時間に余裕があれば最初は朗読ＣＤで通しで聞かせて、２回目は生徒に読ませながら適宜解説するとすれば、教師側の負担も軽減できたかなと思いました。

・こころの行間を説明しながら進めていたので、小説が苦手な人や深くまで楽しみたい人にもとてもわかりやすい授業だと思いました。私自身、字面をおうことしかやってこなかったので、説明をお聞きしてよくわかりました。また、注意では無くてすっと心に残るメッセージに変えて伝える方法もあるのだと知りました。

○数学科

11月29日（金）６校時　１Ｄ数学Ⅰ「三角比」

齋藤潤子先生

【参観者の感想】

・円周率がなぜ３．１４なのかを探る内容でしたが、普段使っているものの原点を探るのがとても興味深かった。

・分かったとき、繋がったとき、目の前が明るくなった気がしました。視点を変えると様々なものが見えて楽しいと思える授業でした。

・先生の説明の際、生徒は静かに聞き、メモしている様子があった。普段の授業の様子が分かり、参考にさせてもらいたい。また、説明と解く時間をしっかり分けていて、メリハリがあった。解き方を自分で解説させているのも参考にしたい。

・テンポ良くわかりやすくとても素晴らしい授業でした。テーマ設定も興味をひくものでした。板書もすらすらとスピード感があって良かったと思います。また参観させてください。

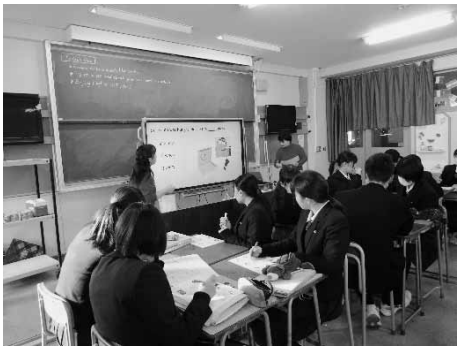
○英語科

11月22日（金）５校時　１ＣＤコミュニケーション英語Ⅰ

「Lesson6 J.K.Rowling」

関屋さやか先生・エミリン先生

【授業の様子】



【参観者の感想】

・単語の確認の仕方は大変興味深かったです。デジタルの教材を作ることは英語の授業では必要だと思いました。

・関屋先生とエミリン先生が連携して、生徒たちの周りをよく巡視して活動をサポートしているのが素晴らしいと思いました。生徒たちの顔が生き生きとしていて、普段のトレーニングの成果が出ているのだと思いました。

・レッスンの内容や語らいなどと活動をリンクさせることができていて良かった。自己表現させるのに十分な語らい、時間を与えられていて、無理なく活動している。あいまいな表現に突っ込んでいるのが良かった。生徒が前向きに抵抗感なく自己表現に慣れているなぁと思いました。

・生徒が明るい表情で参加し、活動を楽しんで行っていました。教材の提示もビッグパットがあるおかげでわかりやすかったです。

○理科

11月20日（水）１校時　２ＢＤＦ選択Ａ化学基礎「酸と塩素」

加茂谷糸恵先生

【参観者の感想】

・課題を明確にし、生徒自身が調べ、お互いに教え合うことで理解を深めていた。教師側の適切なアドバイスも行われていた。

・生徒と対話しながら授業が進むので、生徒も発言しやすく、わからないところはちゃんとわからないと言える雰囲気がとても良かったです。

○地歴公民科

11月12日（火）３校時　３Ｄ世界史Ａ「中国分割の危機と日本」

吉川航平先生

【授業の様子】

【参観者の感想】

・歴史の流れ、原因と結果が分かりやすく伝えられており、当時の絵を見せて考えさせる工夫も見られて大変良かったです。

・授業始まりの前時の復習と終わりの本時の振り返りが学習定着のために良い取り組みだと思った。教材も生徒に考えさせるよう工夫されていて参考になった。

・グループ活動をうまく取り入れ、本筋を理解させるための例題も上手であった。生徒の活動にもメリハリがあり、生徒がよく動いていた。目標を理解させるための発問があればより深まったのではないかと思う。

○体育科

11月21日（木）１校時　１ＡＢ体育「剣道」

加賀谷大輔先生

【授業の様子】

【参観者の感想】

・生徒が剣道に真剣に打ち込む姿を初めて見て真剣に思えた。

・剣道の授業はどのように行うのか興味があって参観しました。生徒同士が教え合い、学び合っている姿が見られました。形をかっこよくやれると生徒も満足感が得られていいなと思いました。

○家庭科

11月12日（火）６校時　３ＢＣＥフードデザイン「ワンプレートメニュー」

佐々木ひな子先生

【授業の様子】

【参観者の感想】

・生徒一人一人が違うものを創意工夫をこらして生き生きと作っていました。決まったものを決まった手順で作るタイプの実習ではなく、お互いにアイディアを共有できる点が素晴らしいと思いました。自分の息子にもぜひ受けさせたいと思える授業でした！

・盛り付けを評価するワンプレート料理だったと思うが、生徒一人ひとりが自分で考え工夫している様子が多く見られた。ここまで生き生きと活動する生徒を見たことが無いので、自分の授業方法について考えさせられた。

・ワンプレート朝食をテーマで表現するという条件を与えつつ、それぞれのオリジナルで作らせていて、生徒たちは生き生きと調理に取り組んでいた。個性を発揮することができる授業で素晴らしかった。

○商業科

11月21日（木）２校時　２ＡＢ財務会計Ｉ「財務諸表分析」

佐藤俊平先生

【参観者の感想】

・生徒とのコミュニケーションがあり、生徒が活発に意見をいい、演習問題を解いていた。

・複雑な説明が必要なところも生徒が理解するまでしっかりと説明しており、素晴らしいと思った。

ビジネス実践『ＡＫＩＳＨＯＰ』

AKISHOP 担当　大久保　　薫

１．はじめに

本校では平成１４年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立てて商品開発や販売、地域貢献活動などを行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。この活動の目的は、社会人基礎力を身に付けることであり、社会人基礎力は①前に踏み出す力②考え抜く力③チームで働く力の３つの力と定義している。

今年のテーマは「躍進」である。来年度が本校の創立100周年、AKISHOPも2年後には20周年を迎えることから、これまでの伝統を受け継ぎ、一層の躍進を目指した取り組みにしたいという思いを込めたものだ。

２．今年度の取り組み

⑴　スケジュール

３月　生徒・職員への希望調査
４月　ガイダンス、担当班発表
５月　企業への挨拶、企画書作成
６月　商品開発､企業交渉､試作品の受取
９月　商品完成、商品名・売価設定
10月　店舗準備、本番、決算報告
11月　報告会

⑵　各課の取り組み

①　開発課
総菜・菓子・秋田土産品の開発

②　広報課
活動の様子・開発商品の写真撮影、ポスター作成、テレビ・ラジオ・フリーペーパーでの開催告知・開発商品やイベントの紹介

③　CM課
AKISHOPのCM制作

④　イベント課
集客力向上・秋田をPRするためのイベントの立案

⑤　地域貢献課
秋田市名所巡りバスツアーの開催

⑥　AKISHOP本部
AKISHOPの企画・立案、当日の運営、販売ブースの企画、復興支援商品の販売、バナナボートの販売、事前・事後販売

⑦　エコロジカルビジネス部
秋田国際ダリア園の「ダリアの無料配布」秋田杉の間伐材を使った「エコ箸づくり」

３．当日の様子

10 月 19 日（土）秋田市民市場、秋田駅西口大屋根下、ぽぽろーどの 3 会場で行われた。当日は雨天であり、アゴラ広場でのイベントを大屋根下で実施することになった。大屋根下に設営された販売ブースは各班が POP で飾り付けを行い、約 4,500 個の商品が並んだ。雨天にも関わらず､たくさんのお客様に訪れていただき、午後 2 時にはほとんどの班で完売となった。

４．広報課やＣＭ課の取り組み

広報課では各班の活動の様子を写真に収めたり、開発商品の写真を撮影し、チラシを制作したり、宣伝ポスターを作成して、会場に掲示した。また、テレビやラジオ、フリ－ペーパーを活用して開催告知を行い、宣伝に力を入れた。当日は秋田朝日放送の「サタナビっ！」で商品やイベントの紹介も行い、当日の様子を臨場感溢れる内容で伝えることができた。CM 課はこれまでのビジネス実践の活動を CM としてまとめ、AKISHOP 開催の数日前からエリアなかいちの大型液晶画面や秋田市民市場で放映し、地域の方にその活動を PR した。

５．イベント課の取り組み

イベント課が企画した史跡の里交流プラザ柵の湯による餅つきでは、ついた餅をあんこ・きなこ・ごまで味付けし、最中でサンドしたものを無料配布し、長い行列ができた。また、本校生がバケツ太鼓やバンド演奏をおこなったイベントや JR 竿燈会による竿燈披露では、保護者や観客が多く集まり、演目後には拍手に包まれた。また､フリーマーケット､オリジナルのゲーム、バルーンアート、スーパーボールすくい、ゆるキャラなどでもお客様をもてなした。

６．地域貢献課の取り組み

秋田市名所巡りバスツアーを企画し、市の広報や学校ホームページで参加者を募った。ツアーガイドや名所のパンフレット作成などはすべて生徒が行った。当日は約２５名の参加があり、参加者からは秋田魁新報の「声の十字路」にツアーについて投稿があり、当日の和やかな雰囲気に包まれた様子や、感謝と励ましのメッセージをいただいた。

７．エコロジカルビジネス部の取り組み

秋田国際ダリア園の「ダリアの無料配布」では、行き交う人々に本校生がダリアをプレゼントすると、誰もが笑顔になった。秋田杉の間伐材を利用した「エコ箸づくり」や秋田市環境都市推進課と連携した「ゴミ減量キャンペーン」では、ゴミ減量啓発チラシやエコバックを配布するなど、リダクション（削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）の 3R を大切にした活動を行った。

８．AKISHOP 本部の取り組み

当日は、１年生ビジネス基礎の授業で開発した「秋商バナナボート」を販売した。今年は、黒みつきなこ風味であり、好評を得て即完売した。

また、地元のイベントを盛り上げるため、AKISHOP の活動を県内外の人に PR するために、様々な場所で開発商品の販売を行った。今年は、イオン御所野店、馬口労町「草市」、秋田なまはげ農業協同組合「営農ふれあいフェア」、東部ガス祭、横浜駅西口高島屋前で行われた「東北商店街Ⅱ」などに参加した。

９．実施上の課題

生徒会執行部での反省会では、AKISHOP のあるべき姿を話し合い、今年の取り組みの反省点や改善点を出し合った。この活動が継続できているのは、ご協力いただいている企業や地域の人々のおかげでもある。訪れた人に、来年も来たいと思ってもらえるような商品やイベントや接客を考え、質を向上しすることで、恩返ししていきたい。

ビジネス実践② キッズビジネスタウン

令和元年度キッズビジネスタウンの取り組み

キッズビジネスタウン担当　今　　聡

キッズビジネスタウンがスタートして12年目となった。今年度は当日の天候が悪かったにもかかわらず、例年以上の参加者に恵まれ、盛況のうちに終えることができた。

１．キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行って仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、子ども達に「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

２．令和元年度の活動

今年度は秋田商業高校に会場を戻し、10月18日（金）に勝平小・出戸小を対象に、19日（土）に一般参加者を対象に開催された。２・３年生の希望者は30名で、以下のように活動した。１年生は各店舗従業員として当日の活動に参加した。

⑴　スケジュール

・５月：ガイダンス、基礎学習
・６月：店舗の模索、決定
・７月：企業への研修、交渉等
・９月：求人票、マニュアルの作成
・10月：店舗準備、１年生へ指導、本番
・11月：報告会

⑵　今年度の開設店舗（３０店舗）

分　類	店　舗　名
公共施設	ハローワーク、銀行、税務署、消防署、警察署、病院
小売業	コンビニ、デパート、駄菓子屋
サービス業	テレビ局、ラジオ局、美術教室、体操教室、音楽教室、清掃局、ヘアメイクサロン、フォトプリントショップ
製造業	木工工房、手芸工房、アクセサリー工房、フラワーボックス屋
飲食店	カレー屋、ドリンクショップ、コーヒーショップ、ドーナツ屋、たこ焼き屋、ババヘラ、うどん屋、ラーメン屋、アイス屋

３．当日の様子

１日目は勝平小学校、出戸小学校の児童144名が参加してくれた。

２日目は一般応募してくれた300名（当日受付含む）の小学生の参加があった。今年度は２日間トータルで４４４名という過去最高の参加数となり、今までよりも活気のある行事となった。

事後アンケートから、参加者の感想は以下のようなものであった。

＜小学生アンケートより＞

	はい	いいえ
楽しかったか	60	2
お金の大切さを実感	56	5
ものの大切さを実感	55	7
来年も参加したい	55	2
秋商に入学したいか	20	8

＜保護者アンケートより＞

① 何でキッズを知ったか
- 過去に参加したから　：41
- 秋田市広報を見て　：12
- 情報誌を見て　：１
- ホームページを見て　：３
- フリーペーパーを見て　：11
- 知人からの話　：20
- 学校からの通知　：26

② 来場した交通機関
- 自家用車　：94
- 徒歩　：２
- 公共交通機関等　：１

③ 満足度
- 大変よかった　：47
- よかった　：46
- 物足りなかった　：５

④ 来年度も参加させたいか
- 参加させたい　：80
- わからない　：12
- 遠慮したい　：４

⑤ 秋商は子どもの進学先としては
- 進学させたい　：18
- 候補に入れたい　：63
- 今は考えていない　：９

４．実施上の成果と課題

(1) 小学生への対応

本校生徒が小学生へ仕事を教える対応については概ね良かったように感じる。両日ともに小学生が仕事を通じて生き生きと活動している状況が多く見られた。小学生のアンケートや保護者のアンケートからも、小学生にとって充実した活動であったことを見て取ることが出来た。小学生に優しく丁寧に指導したことがこのような成果に結びついたと考える。

(2) 店舗経営、お客様への対応

参加者が多かったことや販売予測の見通しの甘さもあり、ほとんどの店舗で商品の売り切れを出してしまった。販売の機会損失となり、店舗の経営としては課題が残った。

また、混雑時の臨機応変な対応、行列の誘導、案内の少なさ、接客時の声の小ささなどの面でお客様に不便をかけることがあった。お客様が快適に買い物出来るように、店舗責任者がもっと全体へ気を配り、状況を把握し改善していく工夫をする必要があったと感じた。

ビジネス実践全体の目標である「考え抜く力」「前に踏み出す力」の体得、という観点から考えると物足りなさが残った。

今後は今年度の反省をもとに、商業高校生として学んだ専門性を活かし、より充実したキッズビジネスタウンを展開できるようにしていきたい。

ビジネス実践③ エコロジカルビジネス

エコロジカルビジネス班の活動

エコロジカルビジネス担当　野呂　耕一郎

今年度のエコロジカルビジネス班は、３年生11名、２年生11名の合計22名で活動した。それぞれが自分の役割を見つけ熱心に取り組んだ。

活動は大きく３つに分けられる。「一般社団法人あきた地球環境会議」にご協力をいただき、様々な環境問題に取り組んだ。生物多様性、エネルギー、廃棄物、ＳＤＧｓのような話題に講師を派遣していただき、今どのようなことが課題になっているのか、またそれに向けて世界ではどのような取り組みがされているのか勉強した。やや難しい内容でもあったが、生徒たちは回を重ねるごとに重要性を理解し、興味を持つようになっていった。講義だけでなく見学にも出かけた。夏休み明けの8月下旬には「あきた次世代エネルギーパーク」を見学した。秋田市のご協力によりマイクロバスを手配していただき、短時間ではあったが実際の現場を見ることによりエネルギー事情を体験できた。

そのあとは「気候変動×主権者教育」というタイトルで取り組んだ。これまでに学んだことを活用し、本校における環境スクールマニフェストを各班で作成した。２２名の生徒が３班に分かれ、それぞれ「政党名」「党首」「マニフェスト」を自由に考え、気候変動対策として秋田商業高校ができることを秋商生に提案する。生徒たちは、これまで学んだ活動を通してグローバルな観点から活発に話し合い、各班がそれぞれの案を提案した。完成後は、３つの「党」が詳細を１年生に説明し、模擬投票で最適なマニフェストを選んでもらった。これまではエコロジカルビジネス班だけの活動であったが、この模擬投票を通して多くの秋商生に環境保護の意識や主権者としての意識を持つことを投げ掛けることになり大変有意義な活動だった。

ＡＫＩＳＨＯＰではダリア配布、フリーマーケット、エコはし作り講座の３つの班に分かれて準備をした。準備段階では心配されたが、当日は生徒たちは活発に活動し、各人が自分の役割を見つけて最後までしっかりと取り組んだ。また、来場者の多くの方々にも喜んでいただけたと思われる。

これらの活動を通して生徒たちは多くのことを学び、また体験できたことと思う。最近は環境問題への若者の取り組みが世界的に話題になっており、この後も今回のことを活かして活動して欲しい。

センター研修Ｂ講座①

高等学校保健体育科授業の充実

保健体育科　船　木　祐　輔

１　はじめに

本講座の研修目標は、「学習指導要領の保健体育科の目標及び内容を具現化した授業づくりのための実践力を養う。」ことであり、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、今後の学習指導要領改訂に向けての貴重な機会となった。

２　講座の内容

⑴　これからの保健体育科の授業づくりにおいて

○　『育成を目指す資質・能力』の見直し

これまでの育成を目指す資質・能力として、「技能」「態度」「知識、思考・判断」であったものを「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」へと見直し、より豊かなスポーツライフを実現し継続できるようにとした。

「技能」の中に、「知識」が盛り込まれることとなり、知識の理解のもとに運動の技能を身に付け、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めることとなった。

○　『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

「思考力･判断力･表現力等」については、改訂前では、「技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法（中略）運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。（各年次）」とあったものを、「自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに､自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。（入学年次）」とし､より「表現力」を重視した内容へと変更された。

また、「学びに向かう力・人間性等」については、改訂前では、「○○に主体的に取り組むとともにフェアなプレイを大切にしようとすること（中略）、健康・安全を確保することができるようにする。（各年次）」とあったものを、「・・の話し合いに貢献しようとすること、（中略）互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康･安全を確保すること。（入学年次）」とし、より人間性などを強調する内容となった。

さらには、生徒自身が、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を活かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、普遍的な視点である主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（アクティブラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められるとしている。

「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち・・（中略）見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次に繋げる学びのことであり、「対話的な学び」とは、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、自己の思考を広げ深めていく学びとしている。

また、「深い学び」とは、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、（中略）思いや考えを基に創造したりすることに向

かうこととし、「深く学ぶことができた生徒の姿」の例として、「（既存の）知識と知識がつながった。」「既存の知識と新しい知識がつながった。」「持っている知識を使って問題が解決できた。」「持っている知識が実生活において役に立った。」などが挙げられる。

○　科目「保健」内容構成の見直し

これまで内容のまとまりとして、「現代社会と健康」「生涯を通じる健康」「社会生活と健康」の３項目であったが、「現代社会と健康」「安全な社会生活」「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の４項目となった。

⑵　単元の指導と評価の計画の作成について

計画の作成については、いつ（配当時間のどの時期に）、何を（学習内容、評価内容）、どのように（学び方、評価の仕方等）についてより具体的にまとめたものであり、生徒がどの段階でどのような姿になればよいのかを大まかに記したり、段階を踏んでねらいを達成するためにどのような学習をするのかを示すことが大切である。

３　まとめ

講座の終わりには、実際に学んだことを活かし、生徒自身が学んだ知識をつなぎ合わせて学習課題を解決することをねらいとした模擬授業を実践した。

模擬授業の中で、教員はただ知識を伝達するということではなく、生徒が自分自身で課題を発見し、人と協働して問題を解決していく力を身に付けられるように、生徒の創造性を抑えるのではなく、より解き放つ役割を求められているという話があり、印象的であった。

センター研修Ｂ講座②

情報教育推進研修講座

商業科　佐々木　一　秀

【日時・会場】

日　時：令和元年９月１８日（水）　　会　場：秋田県総合教育センター

【講座内容】

①　ＩＣＴを活用した「授業づくり」と「情報モラル指導」の在り方
　　＜講義・演習＞　　秋田県総合教育センター　指導主事　小林真人

②　小・中・高等学校を通した「プログラミング的思考」の育成
　　＜講義・演習＞　　秋田県総合教育センター　指導主事　矢吹　敦

③「学習の基盤となる資質・能力『情報活用能力』を育むための授業デザイン」
　　＜公 開 講 演＞　　東北学院大学文学部教育学科　教授　稲垣　忠

【概　　要】

①－１　秋田県学校教育の指針　情報教育重点事項の２から

１　発達段階に応じた情報教育の推進

２　学びの質を高めるためのＩＣＴ活用の推進
（わかる授業づくりや学力向上のためのＩＣＴ活用）

３　ＩＣＴ環境の整備

各教科におけるＩＣＴ機器の利活用は、授業展開に余裕ができるため、言語活動の充実、アクティブラーニング型の授業展開が可能となる。率先して取り入れてもらいたい。

①－２　情報モラル指導の在り方

高校生における１日のインターネットの利用状況は、平均２１７分（平成３０年度）であり、その時間の約半分が趣味・娯楽で使用している。スマホ依存の自覚をしていない１０代は約３０％もおり、「情報モラル」、「セキュリティ」、「利用上の注意点」に関する意識改革が急務である。

また、「コンテンツリスク」(有害なコンテンツの閲覧によるリスク)より「コンタクトリスク」(ユーザ間のコミュニケーションにより発生するリスク)を回避させる指導が大切である。例えば、「なんでくるの」という短いメッセージは、「どうして来るの？」「どうやって来るの？」と受け取る側で判断に迷う伝え方である。言葉の使い方に気をつける指導を心がけて欲しい。

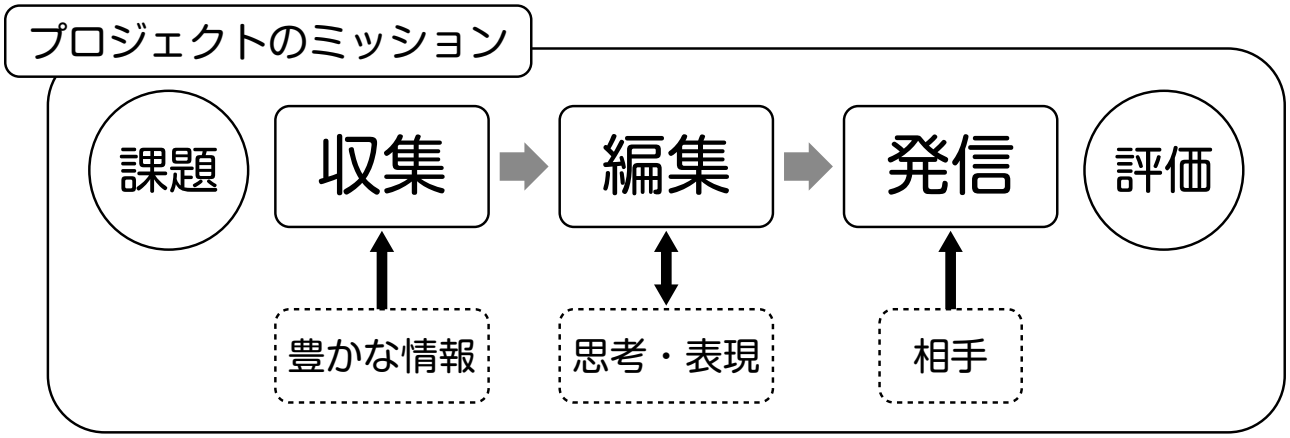
②「スクラッチ」（プログラムソフト）の利用方法の説明であったため割愛。

③　これからの新教育課程は「社会に開かれた教育課程の作成」が求められている。それは、各学校の方針の下でカリキュラムマネジメントされた教育課程の中で、特色ある各教科の授業が展開されていくことを目標としているからである。

文部科学省によれば、情報活用能力が『学習の基盤となる資質・能力』であるとしている。そのスキルは、「活動スキル」「探求スキル」「プログラミング」「情報モラル」の４領域である。４領域に関する育成は、すべての教科において取り入れることが求められ、可能であれば、教科間で協力しながら取り組み、評価していくことも求められている。（別紙１・２・３参照）

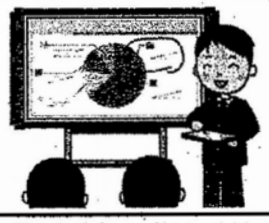
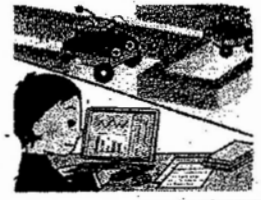
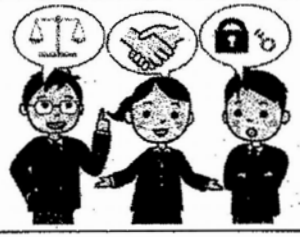
また、各教科における「～探求」科目については、『自ら課題設定し、必要な情報を吟味しながら収集や整理、分析を行い、相手にわかりやすく表現する能力』の育成を図る科目となっていく。情報活用スキルは下支えとなる能力であることから、各教科において情報活用型授業の設計（インストラクショナルデザイン）と実践は必然となっていくだろう。

● 情報活用型プロジェクト学習（Project Based Learning:PBL）
URL･･･http://ina-lab.net/special/joker/pbl/
教科でも実施できる情報活用型プロジェクト学習に関する情報・資料を公開しているサイトである。
ＰＢＬでは、右図のサイクルを何度か繰り返す事によって、成果が変わってくる。学んだ内容＝学習成果をどう地域・社会・自分に役立てられるかが鍵。発信相手が明確かつ魅力的なＰＢＬであるほど生徒は本気で取り組む傾向にある。



仙台版「情報活用能力育成」における単元表（中学校版）＜Ver.1＞

～教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力である**情報活用能力を**，いつも教えている単元等で，ちょっとだけ意識して，育成しましょう～

要素	概要	学習内容	関連する単元等 1学年	関連する単元等 2学年	関連する単元等 3学年
活動スキル	コンピュータや図書などの様々な情報手段を活用するための基礎的な知識・技能 	A1:記録と編集 A2:PCの操作 A3:ウェブ検索 A4:図書利用 A5:インタビュー A6:アンケート A7:メモ A8:口頭発表	○情報を集めたり，発信したりする際，適切な手段を選んで活用することができる。 英語「疑問詞」(A8) 保体「器械運動」マット運動（A1） 家庭「調理実習」(A1, A6) 技術「材料の技術」(A2)	国語「古文」(A3) 理科「天気とその変化」(A1) 社会「身近な地域の調査」(A3) 技術「ディジタル作品の設計と製作」(A1, A2)	国語「評価しながら聞く」(A7) 保体「健康とのかかわり」(A3, A4) 英語「Unit6 Break the Barrier」(A2) 社会「消費生活と経済」(A3)
			国語「図書館利用の仕方」(A4)		
探究スキル	収集した情報を精査し，整理・分析し，まとめ・表現する際に働く思考・判断・表現力	B1:取捨選択 B2:読み取り B3:創造 B4:伝達内容の構成 B5:表現の工夫 B6:受け手の意識 B7:学習計画 B8:評価と改善	○情報の収集・編集（整理・分析や表現）・発信の過程を自ら組み立て，状況に応じて評価・改善することができる。 理科「身の回りの物質」(B2, B6) 国語「スピーチ原稿作成」(B4, B6) 家庭「衣生活の自立」日常着の活用（B2） 音楽「日本の民謡」(B1) 社会「世界各地で生まれる文明」(B2, B3)	国語「魅力的な提案をしよう」(B8) 保体「交通事故の現状と原因」(B2) 数学「1次関数」(B2, B5) 美術「トリックアート」(B3)	数学「相似な図形」相似条件（B4, 7） 英語「Daily Scene6 レポート」(B6) 美術「篆刻」(B2) 国語「魅力的な話面を作ろう」(B5) 理科「斜面を下る台車の運動」(B2)
			総合的な学習の時間（自主研修活動等）		
プログラミング	問題解決の手順を理解し，コンピュータの特性を生かして思考・判断・表現する力 	C1:物事の分析 C2:情報の分類 C3:情報の関連付け C4:問題解決の手順 C5:試行錯誤 C6:データの傾向 C7:情報技術の将来	○コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して，情報技術の価値を社会や自らの将来に関連づけて考えることができる。 英語「Daily Scene5 道案内」(C1, C3, C6) 数学「資料の分析と活用」(C6, C7)	数学「確率」(C5) 技術「計測・制御」(C1, C3, C6) 技術「双方向性ネットワークプログラミングコンテンツ」(C1～C5)	数学「関数$y=ax^2$」・表・式・グラフ（C2） 美術「光と影の空間演出」(C6) 技術「情報の技術」(C5, C7)
			総合的な学習の時間		
情報モラル	情報社会や情報手段の特性の理解と，安全かつ適切に情報手段を活用しようとする態度 	D1:肖像権 D2:著作権 D3:個人情報 D4:ネットワーク D5:ネットワーク犯罪	国語「情報の集め方を知ろう」(D3) 数学「数学のまど」(D3) 道徳「言葉の向こうに」(D1) 技術「情報の技術」(D5)	数学「社会とつながる」(D4) たく36「努力を無駄にしないために」(D4) 国語「メディアと上手に付き合うために」(D2, D7)	技術「情報モラル」(D4) 音楽「ルールを守って音楽を楽しもう」(D2) 美術「自画像」写真撮影（D1）

★単元は例であり，他の単元を関連付けることもできます。　★「たく」は仙台版たくましく生きる力育成プログラムです。

	学習内容	レベル１（小学校下学年）	レベル２（小学校上学年）	レベル３（中学校）	レベル４（高校）
活動スキル	A1 記録と編集	写真や動画の撮影，音声の記録ができる	写真や映像，音声の加工・編集ができる	目的や情報の種類に応じてアプリケーションを選択，活用できる	複数のアプリケーションを組み合わせて情報を編集することができる
	A2 ＰＣの操作	ローマ字で文字入力ができる	ファイル・フォルダの管理ができる	クラウド等を用いた協働作業のためにコンピュータを活用できる	クラウド等を用いてデータを安全に管理・活用することができる
	A3 ウェブ検索	キーワードで検索できる	サイトの構造を理解して情報を見付けられる	AND, ORなど条件を工夫して検索できる	目的に応じてデータベースや検索サービスなどを使い分けることができる
	A4 図書利用	図書館内にある本を見付けることができる	目次や索引を活用して情報を見つけられる	図書・新聞のメディアの特徴を理解して必要な情報を見つけられる	図書・新聞・文献などのデータベースを活用して必要な情報を見付けられる
	A5 インタビュー	質問を用意することができる	下調べをしてインタビューするべき質問を選ぶことができる	インタビュイーが答えやすいように質問の順番を工夫することができる	インタビュイーの考えを引き出すために追加の質問ができる
	A6 アンケート	何を聞くか質問を考えられる	目的にあった質問の形式や内容を考えられる	集計・分析できるように適切な設問文や選択肢を作成できる	設問を組み合わせた集計・分析を想定して設問の形式や選択肢を考えることができる
	A7 メモ	大事だと思ったところを短い言葉で書くことができる	箇条書き・単語でポイントをまとめる	書く場所や矢印・強調などで工夫する	メモをとるべき場面を主体的に判断し、適切な方法で記録することができる
	A8 口頭発表	（物を見せながら）大きな声で分かりやすく話す	（資料を効果的に示しながら）身振りや声の抑揚など伝え方を工夫する	（資料を活用しながら）聴衆とのやりとりなどの伝え方を工夫する	オンラインサービスの特質に応じて伝え方を工夫する
探究スキル	B1 取捨選択	課題解決に役立つ情報を選ぶことができる	選んだ根拠を説明することができる	信頼性や信ぴょう性を考えて情報を選ぶことができる	重要度や代表性を考えて情報を階層化することができる
	B2 読み取り	ひとつの資料から視点を持って情報を読み取る	複数情報から共通・相違点を見つけられる	複数情報から矛盾点や欠けている情報を見つけられる	複数情報から仮説を生成したり、推論することができる
	B3 創造	情報から分かったことをまとめられる	情報を組み合わせて新たな意味を見いだす	情報を多面的に見て新たなアイデアを見いだす	情報を批判的に考察し、新たな価値を創出する
	B4 伝達内容の構成	話の順番を組み立てることができる	相手を説得するために論理を組み立てられる	アウトライン（目次）をつくり，内容を構成することができる	ウェブサイト等、複数の内容からなる情報を伝達する際、適切に構成することができる
	B5 表現の工夫	メディアに応じた工夫ができる	伝えたいことに応じて表現を工夫できる	文字・写真・動画等のメディアを組み合わせて表現を工夫できる	色彩やフォント、映像・音響効果などメディアの特性を理解して表現を工夫できる
	B6 受け手の意識	相手を意識して伝え方を工夫する	相手の反応を見て伝え方や内容を工夫する	相手の関心や前提知識に配慮して伝え方や内容を工夫できる	不特定多数やSNS上など状況に応じて伝え方や内容を工夫できる
	B7 学習計画	決められた計画に見通しを持つことができる	自分で計画を立てることができる	グループ内で役割分担を考えて計画を立てることができる	グループメンバーの特性を生かして役割を分担し、計画を立てることができる
	B8 評価と改善	学びを振り返ることができる	振り返りをもとに次にやってみたいことを考えられる	振り返りをもとに改善策を立てられる	振り返りをもとに学習計画を修正・調節することができる
プログラミング	C1 物事の分解	物事を部品に分けて捉えることができる	部品を組み合わせて物事を表現できる	物事の全体をシステム（部品の関係）で捉えることができる	物事の解決策をシステムとして捉え、表現することができる
	C2 情報の分類	情報を決められた観点に分類・整理できる	観点を考えて情報を分類できる	情報の属性を意識して構造的に捉えることができる	コンピュータを用いて大量のデータを分類・整理することができる
	C3 情報の関係付け	情報と情報の間にある関係に気付く	情報と情報の関係を図やプログラムで表現できる	情報の規則性，順序性，一般性を図やプログラムで表現できる	シミュレーションによって情報の規則性や関係性を見いだすことができる
	C4 問題解決の手順	問題解決の流れを手順に表すことができる	問題解決の手続きを順序・繰り返し・分岐などを組み合わせて表現できる	問題解決の手続きをアクティビティ図等を用いてモデル化できる	問題解決の手続きを評価し、効率性等の観点から最適化することができる
	C5 試行錯誤	うまくいかない時に繰り返し取り組もうとする	試作やシミュレーションを通して問題解決の方向性や改善策を見いだす	条件を切り分け，解決方法を論理的に考えて取り組む（デバッグ）	時間、コストなどの制約条件のもとで、問題解決の方法を最適化することができる
	C6 データの傾向	大まかなデータの傾向を見出すことができる	データの変化を捉えて説明できる	表やグラフを用いてデータを統計的に処理することができる	統計指標、回帰、検定などを用いてデータを統計的に整理・分析できる
	C7 情報技術の将来	新しい情報技術がどんなものか知る	新しい情報技術にどう関わるか説明できる	新しい情報技術が社会や産業にどう活用されているか説明できる	新しい情報技術が社会や産業をどう変化させていくのか説明できる
情報モラル	D1 コミュニケーション	相手によって受け止め方が違うことを理解する	発信する情報に責任を持つ	ネットワークの公共性を意識して行動する	ネットワーク上のコミュニケーショントラブルに対して原因や対策を説明できる
	D2 法と権利	人のつくった作品や情報を大切にする	著作権や肖像権に留意して情報を扱う	情報の保護や取り扱いに関する法律を理解する	情報技術の発達が著作権に与える影響を説明できる
	D3 健康と安全	情報機器を使ってよい場所や時間を守る	情報機器を使う場所や時間を自分で管理できる	健康に配慮して情報機器・サービスを活用することができる	健康や安全に対する情報機器・サービスのメリット・デメリットを説明できる
	D4 ルール・マナー	ルールやマナーが必要であることを理解する	ルールやマナーを相手と一緒につくる	ルールやマナーを創造・遵守することで問題を解決しようとする	ルールやマナーを創造し、コミュニティ内で共通理解を図ろうとする
	D5 セキュリティ	パスワードを安全に管理する	なりすましやウィルスなどの危険を理解する	情報セキュリティの重要性を理解する	情報セキュリティを確保するための方法を説明できる
	D6 個人情報	自他の情報をむやみに他人にもらさない	自他の情報が伝わる範囲を考えて行動する	自他の情報を相手や範囲を考えて管理する	個人情報を法的な理解を踏まえて取り扱う
	D7 情報社会の将来	情報社会の特色を理解する	情報社会の中でどう生きていくか説明できる	情報社会がどうあるべきか説明できる	情報社会にどう関わっていくか説明できる

	収集	編集（整理分析・表現）	発信
学びのイメージ	明確な課題意識をもって、 主体的に情報を集める	思考を働かせ、 自分たちの考えをつくりあげる	相手意識をもって伝え、 自分たちの学びをふりかえる
主体的な学び 意欲 ＋ 見通し	①ミッションへの共感 （問題意識、憧れ、依頼） ②課題の設定 （ミッション解決手段の予想・見通し） ③探究の見通し （スケジュールの提示・プランニング） ④収集方法の検討 （手段、場所・相手、キーワード、質問）	⑯手段を選択する機会 （分析・表現方法を選ばせる） ⑰分析方法の検討 （情報の質や課題解決の方向性から判断） ⑱表現方法の検討 （分かったことや発信場面・手段から判断） ⑲振り返りの機会 （計画の評価・調整をする機会）	㉛発表前のめあての設定 （伝え方のめあて、伝える目的の確認） ㉜発表後の自己評価 （伝え方、質疑、準備状況のふりかえり） ㉝単元全体のふりかえり・評価 （学んだ内容、学び方、自身の変容） ㉞新たな課題の発見 （さらに深める、次の機会、他の方法）
対話的な学び 学び合い ＋ アイデア創出	⑤疑問・解決アイデアの出し合い （ブレインストーミング、付せん紙の活用） ⑥課題づくり （アイデアを選ぶ条件、優先順位） ⑦チームづくり （生活班、課題別グループ） ⑧情報収集の分担 （テーマごと、手段ごと）	⑳集めた情報の共有 （共通・相違点や関連性、取捨選択） ㉑意見の相違や対立 （提案と根拠、対立点の視覚化） ㉒アイデアや解決策の創出 （妥協点の模索、情報の再収集） ㉓発信内容の点検 （相手を意識した工夫を相互評価）	㉟ミッションと成果物にあった場の設定（発表時間、手段、空間、進行） ㊱ホンモノの評価 （リアルな発信相手の設定） ㊲フィードバックの確保 （質疑、コメントカード、アンケート等） ㊳伝わった・伝わらなかったことの確認 （成果物の再点検）
深い学び 見方・考え方 ＋ 探究	⑨課題の点検 （単元のねらいとの対応） ⑩単元の基礎となる知識や技能の習得 （一斉指導や個別の習熟） ⑪情報収集の質と量 （ホンモノさ、多面的、読み解き甲斐） ⑫収集した情報の検証 （信頼性、新しさ、許諾条件の確認）	㉔教科の見方・考え方で整理・分析 （視点やキーワードの設定） ㉕情報の構造化・傾向の発見 （思考ツール、表やワークシートの工夫） ㉖型や制約条件の設定 （スライド構成、発表時間、使える資料） ㉗思考・表現を支える技能の指導 （似た問題の例示、失敗例から改善策）	㊴発表に対するルーブリックの設定 （発表内容・発表の仕方） ㊵質疑応答のレベル （事実確認・意図や理由・成果の発展） ㊶他の班の成果との統合 （別の立場、複数視点で考察、関連づけ） ㊷学習成果を個別に総括 （学習課題に立ち返る、自分の考えの変化）
ICT活用	⑬ウェブでの検索・収集 （URLの記録、検索条件、要約の仕方） ⑭写真・動画・音声による記録 （カメラの持ち方、構図、環境を整える） ⑮データの収集・入力 （ウェブで収集、集計表の設計、センサ）	㉘協働学習ツールによる情報共有 （比較、統合が容易、写真・映像の利用） ㉙データの整理・分析 （表やグラフ、データベースの活用） ㉚デジタルで表現 （作文、プレゼン、動画、プログラム）	㊸拡大提示による発表 （指さし、書き込み・拡大しながら） ㊹ウェブやSNSへの情報発信 （相手意識、著作権・肖像権の指導） ㊺ポートフォリオで学びの振り返り （映像でふりかえる・自己評価の変容）

東北地区国語研究協議会に参加して

国語科　近　野　祥　子

１．はじめに

「どんな入試制度に変わっても、思考力さえついていれば対応できる」、そういう気持ちでずっと授業をしてきました。初任の頃、大先輩から「僕が授業参観をする時は、授業中に生徒が頭を使う時間がどれだけあるかを見ている。先生ばっかりが頭を使ったってしょうがないでしょ」と言われました。以来、その言葉を基本方針とし、生徒が面白いと思い、もっと学びたいと思うような授業を心がけてきました。それはこれからも変わらないだろう、という思いがあります。しかし、変化には慣れが必要です。これからの国語教育・これからの授業には何が求められるのかをキャッチしながら、自分の授業は時代に即したものなのかを常に検証していく必要がある、との思いで研究会に参加しました。東北のトップ進学校である仙台二高での公開授業と今をときめく夏井いつき先生の句会ライブの講演会がコーディネートされており、内容に魅力を感じたことも参加理由の一つです。期待どおりの充実した研究会で、授業改善への思いを新たにしました。以下がその内容となります。参考にしていただければ幸いです。

２．公開授業

漢文の授業と研究発表に参加しました。授業は漢詩で、グループで鑑賞して発表するというものでした。タイマーで時間を区切ったり、プロジェクターで映した本文に蛍光チョークで後から書き込んだりと、機器を駆使したもので参考になりました。研究発表は若い先生方の発表で、一人目の発表は、大学入試の試験問題から新傾向の問題を取り上げ、テキストを「比較」することにこだわって実施した授業をまとめたものでした。若い先生らしく大変エネルギッシュで、素晴らしい発表でした。

↑　仙台二高

二人目の発表は、大学入試センター試験の設問を徹底的に分析し、理論的に、もっといえば機械的に回答していく手順をまとめたものでした。こちらも緻密な分析に基づいた理論的な提案で素晴らしかったです。また、中国語が堪能ということで、中国語でテキストを読み上げていましたが、これは大きな強みだと思います。言語と思考はつながっていますから、言語を学ぶことで、異なった言語圏の異なった文化を深く理解することができます。漢文の学習の際、導入段階で漢文の構造が教科書に掲載されていますが、これまで丁寧に取り上げず、訓点の説明からはじめてしまっていました。白文で学ぶ時間をしっかり設け、言語構造と思考について触れた上で授業を展開するのが理想だと感じます。

↑　漢詩の授業

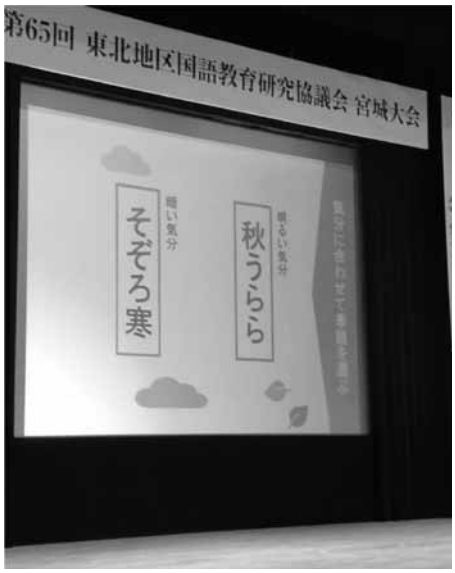
参加者がとても多く、賑わっていた現代文の授業も少しだけ参観させてもらいました。現代詩の授業で、擬態語について考える授業でした。宮沢賢治や中原中也など、独特の擬態語を使用している詩人を取り上げ、擬態語のあり方を問う内容でしたが、大学の講義を受けてい

るかのような「学問」の世界に足を踏み入れた質の高い授業でした。例えば、中原中也の「サーカス」という詩の中に、「ゆあーん、ゆよーん、ゆやゆよん」という擬態語が登場しますが、これは一般に周知されている擬態語ではありません。では擬態語は、作り手が自由に作り、「これはこんな意味だ」と言ってしまえばそれでよいものなのか、という問題提示もなされていました。また、地元仙台出身の詩人を取り上げて紹介したり、心理学実験に基づいた「形とイメージについてのクイズ」を織り交ぜたりと、生徒の向学心を刺激する内容で、とても興味深く拝見しました。

さて、大学に進学する生徒にとっては大学入試が大きな目標ですので、入試問題を意識した授業を行うは当然ではありますが、例えば新傾向だからといってテキストの「比較」そのものが目的になって、肝心の作品鑑賞がおろそかになってしまったり、パズルのように答えを生み出すことに終始してしまっては本末転倒です。大学入試は丁寧な学びの積み重ねの先にあるものであり、そこがゴールではないことを、少なくとも私たち教師は理解した上で授業を提供しなくてはならないのではないかと思います。たくさんのことを考えさせられた実り多い１日でした。

３．講演会「句会ライブ」

２日目はTVプレバトでおなじみの夏井いつき先生の講演会でした。自分の授業では散々生徒に創作活動を強いておきながら自分で創作するのはとてもおっくうで、俳句の創作をやらされたらいやだな、と思っていたのですが、飽きることなく楽しむことができました。ひとつのことを長く継続して取り組まれている人の話には説得力がありますし、その中から出た成功体験や失敗談には、共感を呼びこむ力があります。会場に足を運んだ人たちは皆、一心に先生の話に聞き入っていました。言葉は、何を選ぶかによって伝わり方が変わってきます。また、何と何を結びつけるかによっても変わってきます。例えば、講演会では「秋うらら」と「そぞろ寒」が紹介されました。どちらも秋の季語ですが、「秋うらら」となれば明るい気分だということがわかりますし、「そぞろ寒」となれば落ち込んだ暗い気分だということがわかります。そしてそこに「出来事」を結びつければ、俳句は完成ということになります。



夏休み一言だけのノートかな
星月夜暗い廊下にセコム音
魯迅（ルーシュン）と共に語らん空高し
冬木立朱書きだらけの指導案
夏の夕めくら判押す職員室

この５首は、この日の会場で創られた俳句の傑作選（夏井先生が選出）です。いったん世の中に出た俳句は、受け手にどのように理解され鑑賞されようと自由なわけで、実際作り手から「どのような状況を詠んだ句か」の説明を聞くと、自分が描いていた状況とは異なっていることが多くありましたが、優れた俳句というのは受け取られ方の違いはあるによせ、人の心をつかむものだと感じました。ちなみに、この日先生によって「最優秀」という評価を受けた句は「魯迅（ルーシュン）と」の句です。開催地仙台で教鞭をとっていた魯迅に想いを重ねた句で、会場の多くの人もこの句を最優秀に選んでいました。

言葉を知り文化を知ることで、俳句だけではなく、文学の理解と鑑賞の幅は広がります。メディアの力で俳句の創作活動は空前のブームとなっているわけですが、授業の中でも文学を「楽しむ」仕掛けを作り、生涯にわたって文学を楽しむ素地を作っていきたいものです。

４．まとめ

教員生活も２５年を過ぎました。長年身についた自分のスタイルは、変えようと意識してもなかなか変えられないものではありますが、時代の変化と需要の変化には柔軟に応えていかなければならないと想います。どこの学校に行っても、教卓の向こう側の目の輝きで自分の授業の評価はわかるものです。大学入試がどのように変わろうとも、「国語って面白い」と思わせる授業、学問の入り口を感じさせ「もっと学びたい」という気持ちにさせる授業をすれば、変化を乗り切ることができるのではないでしょうか。そして私自身も「もっと学びたい」という気持ちを失わず、これからも研修に励みたいと思います。

2019年度　研修対象者・研究会等参加者一覧

【センター研修】

◎Ａ講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

22　教職５年経験者研修講座（高等学校6年目）	秋島亜里紗	①6／14　②9／17
24　教職５年経験者研修講座（養護教諭6年目）	髙橋　千里	①5／22　②11／15
27　実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）	須田　州逸	①7／5　②9／20
38　県立学校新任教頭研修講座	筒井　勝教頭	5／15～16
40　県立学校新任教務主任研修講座	櫻田　洋子	①5／27　②9／6 ③10／16
43　高等学校新任学年主任研修講座	石塚　禎子	①5／17　②6／27
46　高等学校新任生徒指導主事研修講座	佐々木ひな子	①5／13　②9／19

◎Ｂ講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

6　高等学校保健体育科授業の充実	船木　祐輔	7／11～12
12　情報教育推進研修講座	佐々木一秀	9／18

◎Ｃ講座（専門研修講座）自主的に受講する研修

29　アセスメントの方法と指導の実際	髙橋　千里	6／26

【新教育課程説明会】

総則	櫻田　洋子 関屋さやか	8／7
国語	近野　祥子	8／9
地歴・公民	小林　稔幸	8／7
数学	河上　貴子 佐々木絵里	8／8
理科	加茂谷糸恵	8／8
保健体育	加賀谷大輔 髙橋　伸友 船木　祐輔	8／8
外国語	関屋さやか	8／9
家庭	佐々木ひな子	8／9
情報	米澤　雅史	8／7
商業	畑沢　一利 佐藤　和佳 小林　克 柏谷亜紀子	8／8

【国語科】

東北地区国語研究協議会（仙台）	近野　祥子	10／31～11／1

【中高連携関係】

小・中・高・特別支援学校連携協議会 （勝平中学校授業参観及び中高連携部会）	筒井　勝教頭 野呂耕一郎 戸澤　恵 佐々木ひな子 関屋さやか 髙田　冬深 小林　稔幸 佐々木一秀	5／29 →　中高連携部会参加 →　中高連携部会参加
勝平中学校特定授業参観及び教科研究協議会	筒井　勝教頭 橘　克明 小林　稔幸 大関　由理	10／31
勝平中学校２年生　商業科目授業体験	米澤　雅史 柏谷亜紀子 石﨑絵里香 菅原　健太 佐藤　大	2／13

【その他】

新任特別支援教育コーディネーター研修会　Ⅲ期	柏谷亜紀子	11／6
秋田高等学校授業研究会	石塚　禎子	11／14
秋田県教育研究発表会　講演会	大関　由理	2／7

※免許更新開始　米澤　雅史　戸田　潤子　戸澤　恵　畑沢　一利
加茂谷糸恵　齋藤　潤子　嶋田　平
継続　佐藤　大

合計 ３３／５２名（延べ５６名）

編　集　後　記

研修部員から一言ずつ

授業公開週間、中学校の授業参観、校内研修から様々なことを学べました。特に中学校の授業参観は、初めてのことであったので勉強になりました。今後も自己研鑽に励み、よりよい仕事をしていきたいと思います。　**橘　　克明**

今年度も小・中・高・特別支援学校連携協議会に参加させていただき、義務教育の先生方がどのようにして生徒を育てているか、教育目標に向けてどのように授業を実践しているか学ぶことができました。自分の授業に生かしていきたいと思います。　**小林　稔幸**

今年度は主にアンケートの集計を担当しました。授業公開週間、校内研修など様々ありましたが、集計作業やコメント内容の確認を通じて、とても積極的に参加する先生が多いと感じました。来年度も様々な研修を通じて自己研鑽を積みたいと思います。　**秋島亜里紗**

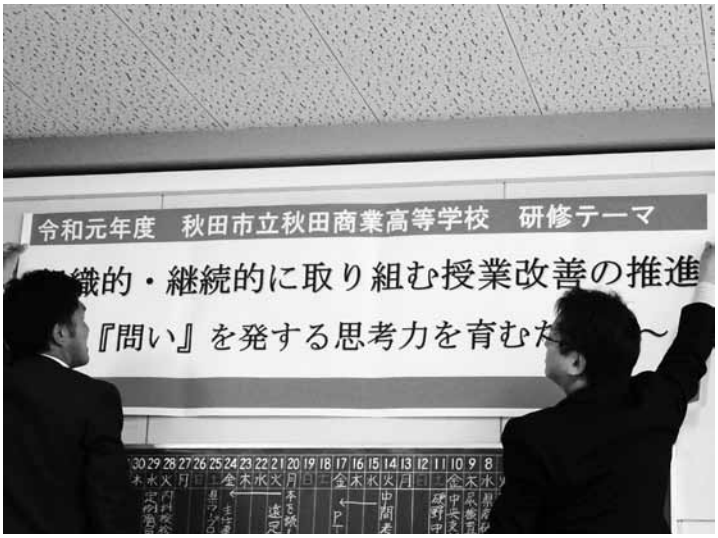
公開授業や講師を招いた研修は良い刺激になり、また新しい発見になったのではないか、と思います。システムや期間の点では改善の余地があるのかもしれませんが、全体の声を聞きながら改善していけたら素晴らしいと思います。私自身大変勉強になりました。ありがとうございます。　**守屋　　大**

『研修集録』に携わることも多くなり、同じような内容でも毎年変化を感じています。私自身、研修に参加する機会は多くないですが、たくさんの報告や取り組みを知ることができました。今後も様々な研修を経験し、活かしていきたいと思います。　**嶋田　　平**

平成から令和へ時代も移り変わり、そして、秋商創立１００周年を目前に、今年も慌ただしく１年が過ぎてしまいました。研修部として計画していたことは全て予定通り実施することができました。それもこれも御多忙にも拘わらず、協力してくださった先生方のお蔭です。

とりわけ、石井潔 校長先生には陰日向になり、力になっていただきました。この場をお借りて心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、寄稿してくださった先生方、本集録を読んでくださった皆様方、全ての方々に感謝いたします。　**大関　由理**



令和元年度　研修集録

発行日　令和２年３月31日
発行者　秋田市立秋田商業高等学校
〒010-1603　秋田市新屋勝平台１－１
ＴＥＬ　018－823－4308～9
ＦＡＸ　018－823－4310
印刷所　社会福祉法人　緑光福祉会

題字･校訓揮毫　熊谷　　弘（旧職員）

校　訓

感謝
勤勉
鍛錬